昭和二四年日記

二十四年

一月一日　起床おそく、朝食後史を下宿へいやる。大とつれ来り、ともに
で朝ごはんをやるべきなりしが。午後両名来十八ヨをとりゆく
ものと物二日分。文治の所給かるものみを目を丸くす。大帰りしあ
と羽田氏のお宅へ御挨拶（砂糖一・五斤）。バスの停留所にて氏宅
より帰りの江山波氏に会ひし。帰りは又氏へ挨拶。帰途写真（俊夫
と父15、イエ子供、ノート代、電球代、タバコ30本25、葉巻45）。夕食後家出
の西田の母さへ挨拶、同氏宅山木氏と氏へ挨拶（バス切符一）。家作
五〇〇と敷金三〇〇とを納めし。
夜は床にはいる中、ゆきみと二女とを下宿へいやる。羽田二〇〇来訪、ビタ
ミン一三、三〇ゆきみ帰り来る。父三児に一〇〇づつくれる。一三〇分を出て
伏見の桃谷へ羽合吉を訪ねんとお話りあり神事中とやーおしかけ
一〇〇〇来訪と。伏見桃谷駅前の遠野隆三を訪ねんとイネ名物きれ出
てゆく。「ケーテをみる」とも。早く退き、帰り羽田に寄れば夫人かきまを来
ぬと。やしばらくして帰り来る。中学校の先生へ紹介すした。
十日史伝子登校、明今日古元二、三〇来訪、少々一新婚はなし。
出て八幡の中、羽田帰り来る。京方文化にて長崎義雄三、入来
義宮、恩塚、荒木の諸氏へ挨拶。羽合君と私とにしんしん堂にて昼
後の木下研究室にゆく。佐藤長不在。田村博士卵のPTA不在。
弘文堂にゆき細川君にいく、文学部氏を訪ね、十二年ぶりの対談
「好女来京往」。帰りて羽田に寄り夕食後まだ中学の帰宅。
「母に会ひたいとて帰り」。夜保田家へ挨拶のハガキ書く。
十一時よべ八時まいねし。十二時に目覚めて眠れず。六、四五のバスにて
ゆき、烏丸車庫より電車。新生二ヶ所。加茂川ゆきて十九七、五四

の案内行、三班行にて松井、上田の二君と同車。上田に案内をなすことにて、早見を始し、靴をさし（七）て層館、富永館長に常に遠慮を断り、一〇・三〇の時間より茶話会、中幅、第の迷ひ来し夕べ（ラッキーストライク）と飲とゲームにて行よ。吉川仁まち高橋君に紹介す。午後『引揚』と『文部語録』の有無接。後に電話を聞くに大毎にSK十七日来と出ること。かねて来し山田を行かせ富永氏いう（報告し、一六・〇〇迄）。聞くに上田と山中嬢と再従兄妹なり。三株社にて一〇〇〇もらえ、うどん食べ（二〇〇円）、宝塚にて（三理一京都一七日八三五）、葉書四枚買い、田中氏と『満和辞典』を買う。帰宅。夕食。けんぜ口氏来（礼状出す。図書館（西山英氏、西山満、辻、中野博之、鈴木後、石浜紙を印の信。家（はいせ丈書榮堂の分）。休み中、小川浩の友来りしと。

信の

一日十二。十一・三〇の八八〇の七〇〇の急行にて中ケ丘丹波市九〇七着。同車に喜海社の的場嬢、葉書九、拡髪（五〇）。図書館（一〇・二〇着）にて暫くして職員会（外語教師との対談の件）すみて吉川仁再来。八方の回新金出でていすまて踏と「せん方なのこと」とつぶ。羊羹三箱を中ゼラ。午後（[illegible]）社への礼状の英訳すませ『[illegible]』をくつと実せしのみ。高橋君に寄り丈こまとも本（はるしと）。上田高後帰り来たりて、卵とん食べ（二〇）、一六・四八のりしも一番のと同乗、帰れば一九・三〇。夕食後手巻もて羽田へ中、二三・〇まで。けよわい、名浜尾西三氏へかき。古野清人と話し腹立ち。京都新聞に下條文相金沢まで十二日出入法。京大視察後十七ら下阪と。

十三日 上田高後一三・〇〇やうと現りれ。紙すませて羽田へゆく。桑原氏へ送り出し、小川同志社、上野直蔵到着と小野新紙氏に会い帰えすぐ眠る。けん上田君に保田へ電話出せ。上田、中込ケを決め、中島明夫氏より手紙。母西正義を宮内（三三）『森清』[illegible]

十二日 十・三〇家を出、桂氏、[illegible]。二三の始発に乗り、七〇七桂まで行平坂にて紙つ記行の木は山中嬢と同車、医者、左輝隆と同に合し、後は電話すれば早山氏まりて奈良へゆきと、一三・〇奈良駅へ行って、やがて喜社より電話、富田君後田の後をとして来、同志社図書館の報告し、吉樹氏にゆきて花一束を奈良へ（二〇）。上田高後に会い[illegible]中に[illegible]とをとして。[illegible]。富田氏と同車、上村社同い奈良へと。近鉄奈良駅にて早山氏と逢い、[illegible]。[illegible]色の[illegible]。[illegible]。[illegible]。

一月十六日（日）安達家へ八〇〇起床。朝食後、茶ごとひく。
一〇、二八出発。伊田山から早川君。常二郎君と出張せしめ、一二〇〇
橋井発、三〇一の急行にのり母堂様へ。稲荷へ中と東丸神社々務所
にお宮君を訪ね、主人を後援会の件にて。（今夜一座園にて）帰宅。昨夕近藤君（浪花。）と船動編輯）まり田邸
の電話借りて。ゆうべ〇〇〇〇の長話。和田の義中帰宅。松本、田
舎松へ移居。通知。
十七日 出勤。上田嘉作氏電話にて身許書とらる。「鶏・農村通信」
配布。廣松君会社の土産に伊豆屋。午後奈良へ中と前山君
に法隆寺つれて。夕方、世古邸にて中、新聞記者伊田坊間も
私宅に向ひしに、一時ごろ帰。大正着後早川氏を私務室へ。
近藤宮田と話し、二人帰しの後橋井とやめとする。日下山氏と橋井へ
ゆく（三二〇〇）。ほ田家にゆき話し帰り、就床せしも一睡もせず。伊田
夫人と早朝まで話せし。
十八日 伊田氏入五〇〇〇起床。朝食。出勤。
（昨夜不眠）七一〇の汽車にて。尾西、宮松まで。ストライキもつかし。
（近藤君は七、一七の汽車にて国山へ（近鉄）館長を訪へ、しかし伊藤
ちゃん歯ぎしせうし。午後職員会 明日の支部
改造論を司書研究（図書館学園図書館と合並 新と会と。
ゆくにより。他はめくらまし」と文と。文相一七〇〇懇談会来る
中村君、奥田、金子終業式。吉村先生の送別会はしを。「智慧の城」
伊田。「伊吉園」中で早川氏と話す。図書保存のことは。白井君と
一七〇〇。出て一寸行おくれて帰る。和田へ長話。松つぼ出産。

十九日 九〇〇起床。朝食。出勤。上田、松井二君と同車。文部部内中
大学図書館について座談。出来ない。知出張。
木、早川二君と文部。一二〇〇電話。和歌山へ。
ISCにて人と早川氏と話せしかがたたかれ。一四〇〇
人と二つ。明日帰宅。白谷宮とりくらし。帰途山崎文
君宅（此一つ話あり）と。帰りて二時と。高橋君と共人
を第一メ目わかせ。帰る。和田、来客。
二十日 出勤。公務の方地図」つくを書く。一四〇〇より社会
他と図書館の振興会。つまり、一六〇〇位。高橋君と第一メ
目の移りもうし、善法寺にて帰る。中松君と一緒に。高和駅
にて別れ早川氏と一緒に。連絡者をもつ電話を（三〇）
近藤君もきて。とにかく駅前の喫茶。新宅にて八〇〇移転
（一五二）。帰れば（三〇〇）。和田家すぐ。
又、和田氏の言葉にて。又、和田氏帰る。後でんでん
ぼをもらしと。
二十一日 一〇〇出勤。べ附つき。伊藤ひせず。橋井の服部氏
已、芳野清、記田氏、吉川氏の年賀状迎。芳野、吉川へ八時
ビブリア」にまとりしつて善法寺へ。山中嬢父君より明日一五〇〇来
よとの伝言。一八〇〇帰宅。和田へ。二一〇〇帰る。
二十二日 出勤。易法寺購入図書のカードのタイプ。疲る。
帰途高橋君に寄りて。内向つぶし。一五〇〇山中嬢へゆく。伊藤君
已まで。上田の家へ。帰宅。和田へ
中村 西田氏一緒に帰る。

一月二十三日（日）紅蓮華は、華枝防止の声来軍ちゃ。がからし。羽田来る。午後、姉は又ていやましん保田を送る。ある氏とくるはぬ治めるゆきと。アチコチのことて論敗のようなる無は疲れ。後は。一八〇〇まで（出て河辺午三位の弟は会議いと三郎ちゃし寿（一三）にて「こしらや始末」をと。夜色者東映画。帰れば二二〇〇夕食。先角山氏ちゃ月末来ると、家で安内しるせしかき書く。「明治三十四年」（一〇）。

二十四日 出勤、一二〇〇家を出、研究ゆいやと任義長君と話す。菊池先生（羽田義弟て。）は任義君の紹介で、旗田巍氏帰りしと。進と豊で春のみて別れる方法にゆかば三日ぬ果物、稲川地区を、中国地方を「偵察」を教ていとき、「民族学研究」二冊ものもらい、「南方の「蘇来源」をつけて出、暮方ていやと方文化事用絵（四〇）」と二冊と「女之介」と買い、帰り羽田一泊する。宮守了 母は郵便局、一興 新文化賞の電報来ると。史はきいやる。よ松で夜後ちゃハかき。今西春秋ちゃ氏の手紙によろしくと。山之住、旗田氏へハかき。史帰ちゃ南先一興 新文明長三三〇〇北せと。

二十五日 九〇〇出て文部部ていハつ橋買い（五〇）、大阪一ゆく、紅蓮華民自党の定時、女達愛三三名、中先出 後 ゆいて林新母と之しより社面、そ今後るる文ちゃ三ハいおもて春をちの虎を和歌ちゃ。

しとは帰り、民新母ちゃ要買されし、やはて来る。出て始まいちゃ父ちゃ名字、村田幸三郎の新出しちゃて出、岡井の家し泊る。母石二十一歳と（一興 父は五十年ちゃし）

二十六日 岡井とともいおて、病院いかも、林新文へ金ゆ、九〇〇帰宅。ちゃて新ちゃ陸いて帰る。和田ちゃちゃ、おとちゃ、始男ちゃ校正。

羽倉ちゃ電話（生ちゃ電話通ちゃ松いちゃ）法隆寺松ちゃと。羽田いかをへとちゃ、校正一二〇ちゃ。

二十七日 出勤、新角山ちゃ氏電話ちゃ、法隆寺壁画等聚目。ちゃしと。宮守新長、鈴ちゃん先ちゃ家法寺別所をまと。ちゃ。ピカリア一冊と、編輯会議を開之ちゃん。ちゃ新ちゃ。夕食ちゃ。すむてあちゃくとちゃ。一四三〇出て、長崎社ちゃ、上田君と話す。一時間半帰宅、すぐ眠る。（「西鶴と書目」出来、「不二十二月ちゃ」）。

二十八日 出勤、会議文庫のこと、舞子、沢田と整理ちゃ。ピカリヤちゃて神田先ちゃかと。帰り寄ちゃ、夫婦喧嘩の仲裁ちゃ。「松浦」の校正終る。

二十九日 九〇〇家を出て羽田ゆき、ピカリヤ、ちゃ。文方文化ゆきと神田先ちゃ会ゆ。二月三日（土）ちゃ来ちゃて会ちゃと。「支津学研究」始まる。見塚氏ちゃ会（二月一日まで不在）。座ちゃ婦勝手ちゃ。ピカリア物語ちゃ来ちゃと。別れて桃山ゆき、夕食後羽田へゆけば神田ちゃちゃいへ会ちゃし西田ちゃ一時氏ちゃちゃ。酒を飲ちゃて帰る。羽田ちゃちゃはいめて会ちゃて、やせちゃはるも暗中のお愛想ちゃ。うちばうちゃちゃちゃみちゃつちゃちゃかしちゃ（知ちゃ）ちゃしみちゃ法ちゃかしちゃちゃ。よどぎみちゃ産ちゃはべらして清正ちゃ北ちゃしちゃと（も）ちゃありけるものちゃ。

三十日（日）雨、角山ちゃまるちゃと思ちゃて一日ちゃいちゃし、ピ主作ちゃ羽田ちゃ作ちゃしみ金ちゃ双ちゃみちゃ（いちゃ）。旧新社ちゃいちゃ、ピアニスト校正ちゃ面ちゃでしと、今古ちゃ親年ちゃと、勝手ちゃちゃ。和田ちゃ（手紙 坂口先生、岡井へハかき。

三十一日 出勤ちゃ。ちゃ新ちゃ、ちゃ社ちゃ事合ちゃ。ちゃ近年

すべしと。中村君いひて一二三人に集る。ちかひとみよしと思つゝ[illegible]ととを
迎ふまに来るなんのこゝろぞ。栗原氏に言うらしい向山氏まうし
拝まるし。羽山やをりがん語化来君に見えと祝る。
二月一日 出勤、直柱の部会に引き五の会迎朝、帰出行る。神田を見
への連絡なり。荒川正二氏のもとに手山氏へ速達書く。会に彩之輔来
り山田姫に帰うんと。化来誠ひがん語ふてんと。羽田への手紙とづかる。
三人にて也。化来君と来来。西大路にて沢名鈴君と同車。本の図書
館後化来にてまうし。明日三三り体ふをゝ。度松君五松に会ひしん
やとこの話しまし。旅山氏より返事。母君とこうれと。田村君故ちかか
ら、母君十四日たくさ。西敷持井へせと。
二日 出勤、正午欠勤せと大来。故里会是れ[illegible]。建の許婚に井
谷氏の紹介して大の下。長せし家の長女と。ともにて撮影(立)。皆川
東尊中の葉野る御の家でのしいやく。母上来。間げは二十三年二月
十五日まで間にしイテ色にて戦死と。空襲之れは三男五
月十五日。会ひしは一度。五年五月と、本を二つ下かゝ、母上や、狂気
り。本会ひしは一度。本を二つ下かゝ、母上や、狂気
らし、家に進駐軍に接収されをり。帰って夕食後、羽田。けわけ話。
山久保、角山氏十五日帰来まると。
三日 久勤、一日在床。角山氏へ行かや。小雨。寒し。
四日 出勤、七ちゃん会の今後いつこと相談し、午後出向会。俗の
友ちゃ葉君(以上高校教官)まうこと。羽田へ転職しとと思ひ出らし
の五正郎への伝言地下。神田氏そのこつ。つまり空襲と敵色きと。
ける西条孝一、小幡信男、近藤氏、入江義吉、谷口氏ちゃん、山崎
縁にてやいて三日後の退職と。小林嬢の話。蓑谷氏へゆき二十二。

とられて「狐」の仇絶ち、富樫君いをいも せきいて帰る(生詳
し嫁けと)八王子のいる長谷部嚴吉氏に[illegible]のがれし。羽田
いきうつる(三八〇)と芋とを送却。
二月五日 出勤、五之部タイプ打ちて疲る。午後西大寺、帰れば一七〇。
羽田きうて話す。けり寒し。
六日(日) 寒し。島井、藤井武司、沢崎三氏へハガキ。午後羽田来る。帰り
て去姫嬢。吉田不二子氏より手紙、五月二十三日結婚。
七日 寒し。出勤、午、山中嬢の安否来られ山田義信の話をわらる、議事
出来ずにおわる。神田氏への使命ぜん一五〇〇退出、富樫主人より等もら
い虚ヶ谷へゆとし不在、電話掛けして帰らしむ二一〇〇すぎわらん
ず(中山管長古参の方十三名、十九、二十名の中の部会と、ちと)。
八日 寒、神田氏を七三〇お訪ねせし十三部会なし、三十分の午後
ちうとと。二一〇〇登校すれば、父伊治おれ。沢田と口こと話のす
大分やり、富樫夫人より葉餅を貰うて帰る。山中嬢ちゃん(しあ
い胸さつ。
九日 寒し、八〇〇家を出一一〇〇登校、職員会ひまり、除草十二
時と。教行委を代表の者気地ちゃを嘆いぬる。帰り富樫
君いきうかで研ちう帰る。俗にう資格審査書強迫。羽田い
ゆき東方史論の校正頼まる。(一月二十六日付五三四一号)
十日 寒し、八〇〇出発、一〇三〇豊橋山中を高氏へ会ひ、文教部山中
を同伴久保話長い会ひ五月後用中止の図書館で俗ちゃ
て、新井七郎(以前長に相談三〇〇俗ち。俗に電話すれば大
田(ゆきと。帰途吉樫ちゃ高徒つゝ俗名取り。帰西城大学

を乗越みし峠茶屋にて休む。伏見に移りしと。帰れば羽田の兵
いて入会義高氏に会と家(つれそう)「今方寺記」の相談す。羽
田に来合せと二人。さて話す。
二月十日 はじめての紀元節なしの年。一一〇〇義徳社(ゆき上田善俊に
来たる)へ出日曜。いる伊藤かと松まる。十七年ぶりか、医者開せれし
て大阪医大に勤めと、表一印の組合、代書く。一四〇〇迄ありし、一六〇〇
宮橋君と寄りて帰る。羽田より夕方見瑞祝の校正。亀井君とかき。
十二日 一〇〇三〇長徳社へ校正かせし、宮橋家(ゆきもかせし)。保治前信五五〇〇。31
一五〇〇受取り、帰り伏見城を訪ねしに留守。夜羽田へかえ善海の校正受取る。
十三日(日) 午前(略)君来る。畫食後ひと成り坐を共に玄関前庭。
野田みたいもりと図書館(のとなり)、大徳寺前にかるる入へ堀辰
雄「花のしたに」買う(三〇)。帰れば羽田来る。夜和田来、早川君、田村善雄と
手紙書く。
十四日 出勤。三嬢いまに英語はいい。河原町大教会(の後)一四〇〇
退出、二十日の会のことにて、神田氏と「聖教制記」(五〇)買い、栗
文へ寄る。何もなし。三田村氏の校正受取る。午後雨。
十五日 朝上田善俊へ会にしまもし、三田村氏の校正なる。七時除アまし
正法寺へ(二十日の会の案内状書き、四氏へのとどけん)持ちて出る。西大寺
に図金一六〇〇とまりをけ、さて知りし。夕方より新雪。かきそそし
降り来る雪の集まるかの春行つこうと思ぜるひと。
十六日 ふへ雪積む。三田村氏の校正とい、陸鍋、職を組合つきして
午後出る。長寿、善善出発、宮橋入江二君、島松うかき。
吉永園古教授と話す。

二月十七日 出勤。一四〇〇河原町大教会へ五千円もちゆく。神田来。
お宅(何か。西田氏の近所桃竹氏人ともれて紙谷へ明日出発。
清ちゃんとうるのよて友そし。
十八日 出勤。「台湾の古地図」かし書く。新井女より五万円信用
を申込む。中野博士うかき。「大和文学」ちかしかしかと。
十九日 出勤。「台湾の古地図」アいた。新井女より預金、けしとう」来る。
来城へ下車、成都陵、帰る和田来。
二十日(日) 九三〇名まり展覧書之丈、此表紙うる稲田氏五〇〇。校
祝ことん一三〇出て島丸車庫にて別れ、河原町丸太、すこし孫時を
「義徳社」(五〇)買い、大教会(ゆうべ会)、ちかて在野、神田、赤松、栗井
と野、石浜、西岡、富永氏と会をそれ(一五〇〇)、宮橋と来る。名後之
そわれ図で夜会(ゆうべと、七時)「ゆき」をかさんと。栗井氏と
図書うしは二二〇〇、大徳寺前で帰る。
二十一日 ふへ二三〇まで眠れず、出勤、一一三〇畫わるめ、夕方え化ゆき入会者
ん会、今方手紙のとめ(ゆうべ赤松君うかき)、研究室にゆき田村博士
伏見元と話し、羽田とともに帰る。
二十二日 出勤。大阪税務局申告せと、松井君に話せば連絡せんと。
田中のそれなるべんかつと見に来しまし。慶松君三月初旬帰
郷と思手紙し来る。二十三日迄反対しくれる代り慶松会面おれ
原、日の接待。八木の世君うかき。
二十三日 出勤、執行委員会で図書館ちかいは、研究と呆れると。
正法寺「ひ」一六〇〇とびみられと。一六二八のりて帰る。
二十四日 出勤、金井君ら司書部会情と鈴長山中村上野二人と

[illegible]ことを、宮崎、沼に注意す。伝言[illegible]動[illegible]辞典（四〇）を
入れてくれたり。X氏より八〇借用。夜田中を訪ず。松竹夫人を
訪ず。依より先ず久保氏より書籍の管理
二月三日 X氏の不[illegible]にて出勤せず（五〇）、「山崎の[illegible]」すべき
一十二、三七にて帰る。久保氏と書籍[illegible]辞典（古典社）書籍[illegible]
典（[illegible]）より帰る。
二十二日 七、一五に[illegible]八、三に[illegible]市着、松井君にて[illegible]変不誠意なりと
久保氏より[illegible]和四万円と本[illegible]借用、ビッグ[illegible]「永業大典」
[illegible]東洋のところ吾やるとする。帰り伝[illegible]。伝言[illegible]
[illegible]代四〇。かし、来五弁当（一〇〇）弱く。
二十七日（日）一〇、三〇角田君新見夫人ここに来る。これより[illegible]会
[illegible]。[illegible]の弟子[illegible]会わと。豊飯[illegible]。「表現」[illegible]
[illegible]大
[illegible]。入れ[illegible]に正[illegible]
[illegible]。久保氏[illegible]十五[illegible]
[illegible]。[illegible]。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

夕食の用意し帰る。砂糖(二五〇)パン、脱脂綿、かーぼ買ふ。おいも
送しいやく。夜食のち、寒一の寒返しのパターまけと蕎を
とりて紙すへやる。ミヤコ宜しきらし。長谷あさまれと。
角山へらのも。
三日 土 長谷来れて共に故事やうして母泣き、一〇〇円貸す。
紅毛誠ちきしとておかてとこれい不地。ひつりア、森の内(ふ
来て呉)とし宝之と鉱泉事業と経済遠人信とのえと勅明とうや
ひとて。ムーリ二嬢ちおえ集とんりんでこネーかれまえ不地。仁吉誠氏
い事れば来二外習ひくれしと夫人二外(やとていまがし。深山国里故氏
来合せしかたり話す。帰り西のま配ハンダ高れちはて、こうえしれ中
き夫部第一八〇〇、ま阪神ストとて泣就帰りて眠るしのみ。谷山、高岡
三〇(五)朝、和田ちて、帰れば長谷来(服部ちはかれ、げのPTAち一五〇円
りとり帰。湯つれたと、帰りしすとこやこ吐血、えく心配、やすよし 豫卵巣
きらし。午後散ちれて泣往之経過系、今ちち紹、ニニ二ツラー戯曲
ほ(一五〇)豊右岡の私はそ泣(五〇)帯角、三人法師(四〇)買して帰。
まき(三〇八)岩(四五〇)居く。文来る、不性。
七日 雪、湯ちはし久しぶりにやてしまあ、まだ腎の経とれず、物中等
(四〇)、動食物(五)洗濯るけん(五五)買ていく、午後おえ孫先と思ひし
み表浅之の書類出来ず、雪の中を島丸今新聞まい取来。竹のよ
り同今山本夫妻二人へ帰る。お足無い林檎五ケ鶴。夜和田へ迎ひ
いやく。
八日 晴、一〇三〇内海助産婦氏来る、ほんて来訪やのとまり御礼
一〇〇〇円と、午後蜂きち鉱買ち(二〇〇、配達代五〇)内海へ(一五〇)ル

ちゆえ泣計(父病)、内海の三日ちし来ちえ二日三分を
出す。坂野衛之助経計へ中、豆泣一中とて了、久保之えれ
之一箱炊ち。夜和田へやく、坂本稔子ちち、同ち和ち嬢子迎
来ちし。
二月九日 来、味噌醤油の加配の手続をし、豊谷技上堂蔵分計へミヤコ
の年賀状、郵便又ちは卵十ケ祝ひの物ち、ちちえに(ちは古
川、桑名、と塚法名別序庵法会、入名ち、仏教ちち通すをしと、ち
て桑名、久塚、藤板氏とし〈ちて唯茶、桑名氏と出ちて帰
れ古事記(三〇)つのち二(二〇)買して帰る。
十日 出勤の途、長谷ちちちが安善右上ちの蕾十二ちの金不すと。
「大乗之」への話ちせると、ひつり、ア二冊もちち、聖鈴、宮永鈴を永楽
大典の依頼す。仏四氏祝として一〇〇もち来しを断る。八本鐘之ちの
五年賞ちて休みのる。(たちちの金ち)
少しち。宮殿居い来ち帰る。午後哲郎ち祝として着物。
十一日 地蔵、久節、和田二見風和と、遊ひに来ち、午後下法ちちを
出張り。桑原ち、古ち尾ちちて四〇〇、その代ち寺田成氏「南と北」ハレター
「印之大」買ち(一〇〇)。大英ち神経堂(十一版)に八五〇と、家伝もちち
同氏ち和ち氏泣了れ仕明ち一七〇〇来ると。尾西寅、早ち経代氏。
りちち。
十二日 晴、和ちち和て下法ケちやく、三印教文拾ちちち一日遊
ち。林教文ち一片の仏壇、一七〇〇服部、同ち和ち二女祝ちちで来
訪、和ち女人ち来る。服部基治と宮相書院ち印鑑ち
ち来し。吉田のち後八〇方日ち、一九〇〇鉱去。竹ちち和田風和

三月十二日　同窓会いかなる結果なるや。一〇〇〇上野発松江行乗車。帰り
て又た宴会。夕方より雨。一五、三回を嬢帰る。大まつて七。
出ず来る。夕食の配給（一六〇）、谷崎「南京虫」（四五）。
十四日　起床、朝日に湯たんぽ蹴返す。ようやく起床。午後浮浪池を辺れ
ゆき北池まで歩く。一日見れば花ぬるむ。もひしうたよみし方登大女
子供ゆかるいまだ来らず。
十五日　小雨、午後買物にゆきしが、西条寿一より一五日男児を出産
と命名せしと。
十六日　八〇〇小松ケ丘母より二〇〇借用、定期受ひ、二一〇〇登校、会井君
お説教二〇〇始め、伝家の医師会、家族を立職業安定所へつとめ
しと、気の毒、酒井先生来る、北野吉松の帰れると、を送れまりし。
「不二」「新地震（内容は「発」のる）」来る、後ゆかず母の夏衣送る。
十七日　二一〇〇登校、前川、中村、山崎、宮橋四人より太祝（五〇〇）、古間を
訪ひ氏より地下ナンとかいう新「ケンケゴール」を送す。はまたタより
雨。
十八日　一〇〇〇堂校、午前中組合のこと宮橋君に不満、大毎学芸部の
基礎書、注陰家四人より、夕作外と、義務の話合等、午後農務会
まみて「ムラ」を合うこと、中村君に不快、帰り八木君ん新井家へ
むくやせん菓子（一七〇）一斤しるかす、はの見れば三月分俸給捉込
一一〇〇とるるらし。帰宅夕食、朝日ちゃんとすれば向かう書る。
答へんかが。
十九日　伝記の四三の起床、九時に一睡もせでなし、七、一五の急行ゆかん鐘の音
聞えんとせしし、俸給八四八四、家族手当二〇〇、地域給一〇五、引く税金
一四五、組合費四五、借金二一二、文部費二。うせたんこ是を宮橋
より三二〇〇借る。河北氏、この外は十八オ？われもせこ来まんよ
みひとこそして。朝日より、はの「ケ」を見附とし四二、ケのサマ？ケイ？
ここ（ひとし）又、はの新井女子委員？迷し。
二十日（日）まだ寒し、テロし、寒さし、午後下紙ケんく金中、
書ケんかて訊中が討会帰宅も母に五〇〇わたし、ひ誠堂
ムかて「大和古上代史攻」（四〇）とラジドルフ「オザムラ社」（三〇）買ひ、
松原（13×14箱1）買ひ。
二十一日　春分の日と、はさ出勤、ん〇〇高等、八木君来り地位回復
やうてれる。午後ゆかる来る。帰宅宮橋君ゆき二二、三〇まで
しゆかてもらよ。十八の手当は遅い入に一〇、宮橋氏、八木主事ラ
と、ケの男位を一同いひしれ嘆つてしまうと後悔、九もうる。ゆみの
ひとちゃと的陽芳宮と見合せしと。
二十二日　七、三〇起床、朝食ゆれ、善福寺（なお法論の会うこと
きうりしに不明、新ひい会ってゆく一旅出発をやうしと、中学を
帰来ることにひ参せよ、とまはゆへ重任せをつるおを、八木、帰
りて図書館、八木嬢風邪臥床を見舞ひ、お祝送しい約。楽お坂
帰る。帰宅朝日へ電話をして、帰宅すれば上田来りてをかうちい
し。朝日ゆきて話す、西田氏人、ゆてお坂陽芳氏と西田話をしん
いてしと。
二十三日　朝、雪!!　天記いかくを出の統日臥床。皆多と古川仁とハかも。
伝お、史の女すの長宅やかしひ。はよまを伝えばのれんをく。（七四五〇、五
左郎帰へをへ八の千書く。

三月二十四日　晴、下谷町に寄ると、のち天花、義弘もやはり来る。

今日ゆくこと。風雪激しく寒さ厳しかりしが、上田一雄と会へば、句日に向ふと（山中嬢に紹介しやうす）さ後言橋と人と会（出発、酒田行）合と。撰でいやす（西田青軍人会）地幸いやすが、河を渡るのいにんと。夜泊のてもらい。かすかのの ちしのの けいとめをかるつ、ちんちの水しをとめ、まかをかをみほとけ女つ、ちの水れ水をめのまれにかよひをすと。（会津人「鹿島屋」をこの夜よ）。ちちかき血しほるかるをめ、りみほとけをかるわれにあらず。

このころ、なにたるてかよはひとよひのゆめにあをえしめむと。たかれれいひやとしはくるしかりををめつまにえるとはあらず。まんの代もちれをあやとびたかめまり神かほとけをとめるとのころ。

二十五日　朝八〇〇の汽車にて母様、藤谷夫人の手紙もって川を渡会館へやけば婚と。八木君より地位のことを記せしハトとり堂様、たべりしのみ。高橋さいやき上田一雄さいやきして一二〇〇ころ帰宅、西

宮夫人、同を和よ

とへらい。保田家、保田不在、父弟君こ話しは

ゆくこと。

二十六日　保田家を出て多賀城へ餅とを始め、三児つれて出、鈴木

みへ、九〇〇の電車にのらんとすれば出発の阪口先生と妻に会ひ、同

書籍いやきの「清盛」二冊とり、ちしとちんて山行の高橋君に会ひ、西

大寺。帰りて夕食後和田へゆく、上田二十四ちんまりしいの。旗田氏と

今の海路とることとかき。女同が嬢考すべ帰さし田。

三月三十七日（日）三時頃人性寺へ行き、角田氏と義弘の方へと

角田氏「新潮」「赤とまり」「赤とまり」を始めるいせて（卯十七）

送りて荒木宅泊ゆし（二五〇）、物干竿買ひ（五）帰りて和田

ゆきて寝る。

二十八日　八〇〇家を出、佐藤誠君に行てしい不在、市場にて

大日ゆきを見（二五〇）、うねていやき、世君にきしい不在、

[illegible]井君宅夕食を馳走をこ、りんで帰りて一九〇〇まで

ゆる。高橋君いやしは二〇三〇、老人と話し鈴木治氏にきし

高橋君を待てゆる。[illegible]

二十九日　九〇〇安達家を出て、前川中村幸彦二氏に紹介

しいやす、登場、摩耶君と母様を立つと前川氏に代り

てはせ、一二〇〇退出、アパートにゆき金井君にゆけば妻子病

む。[illegible]先生の行き合ひ、お見舞おきて退出、山崎

君に泊めてもらうとしゆ村家宅、吉岡二君を訪ね。ゆ山君

紹介の野崎氏婦人性の者に[illegible]拒まる。

三月三十日　起床、到食をよばれしのち村君にゆき基隆注不同と

せ。しきしれ後にまだ会ひにきしまし帰宅いつく。

一三〇〇帰り、宮城の表紙、西田の本、和田にゆくはしの、帰

田君にもちゆく、この間母様にもとし帰宅に会「新潮」の伊

わのらんと。帰途、五郎君に寄り会津人「山之内」と池内氏と

と寄して帰る（一五〇）。和田にゆけば出発、西海氏代理氏所に

事件と不快。砂ちらかり。

三十一日　一〇三〇家を出、桃山学を、西の表にゆく、佐藤氏不在、ラブ

くしてをとめの古りにおもいのこすちからをうしはたかしとおもわぬ。このやま
の木々ぬらすくさにはか雨のふる（ときは）木の下にゆく。
四月一日 一〇〇〇まで寝。和田山へゆく。午後峯崎の白鳥博人氏を訪ひ
奉り「四季」をもらひ、㊐ゆく。金まうす。夜「台湾の古地図」の
註書く
二日 午前中にて註ものこる。二時より研究会（もち
ゆき）。午後休れる前途の細しと注く、不害。
三日 ようやくサンマータイム。一〇〇〇まで入れ、四五号一三〇〇、八木
（日）の世君いやに嬉しの会しあるもの入れ少し待てと、女人
濱野君と同来、上野氏（ナガ）偶に入れし清徒信号の十三日の
の日、夫人病床、田宅の姉上という人来。五三〇〇まで話して
眠る。（神武天皇祭とし[illegible]）。
四日 九〇〇ともに出[illegible]多治来[illegible]の好[illegible]不在、昨日尚中もまして姉[illegible]
まとて早く辞去と、反物[illegible]、博多（ゆき）[illegible]考
へんと。[illegible]田に会い尚井に会え、坪井に会して帰る。和会[illegible]
古[illegible]多会する[illegible]帰れば一〇三〇。婦人又出[illegible]
略君い木暖の面会をいれ来ること。
五日 九三〇出勤、九〇〇とまかるとすると、酸[illegible]と勤の上の表演出
来ず、金井君の夫人方木の訪ひし空の流産と。一二〇〇近出す
ば帰りて明るし、入れ[illegible]和会[illegible]、[illegible]を訪ひし
い競争者と、発令は七月頃ならんと。
六日 六三〇の入[illegible]の[illegible]七、一五の電車、九〇〇まで（陸鉄、[illegible]）。
[illegible]安達蒙と山[illegible]会議つまりゆかず。夜帰で
二時に活[illegible]。
四月七日 出勤、吉松宅まうでて軍部[illegible]会件、水[illegible]二[illegible]
整理。山[illegible]と同車帰る。郵[illegible]電話、[illegible]
吉松[illegible]、履歴書[illegible]。和田[illegible]「[illegible]」と。
八〇、八〇〇趣味、履歴書[illegible]、一〇〇〇共同通信社へゆく、郵会君[illegible]
[illegible]ちゃうの[illegible]堂、墓[illegible]（四〇）[illegible]（三五）南[illegible]
帖（三〇）、[illegible]十二冊（五五）、仁尚[illegible]十三[illegible]（閣[illegible]）
[illegible]家[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]入[illegible]義[illegible]を訪ひ[illegible]電[illegible]
[illegible]。[illegible]会[illegible]帰[illegible]和[illegible]
郵会[illegible]電話、久世郵[illegible]口[illegible]
九〇 出勤、吉松宅[illegible]展望会[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]候[illegible]巡[illegible]。[illegible]鳴く[illegible]
[illegible]。
十日（日）[illegible]来[illegible]履歴書[illegible]、和田（ゆく、[illegible]）
へは[illegible]困[illegible]合[illegible]。[illegible]後[illegible]（ゆき）
会君[illegible]履歴書[illegible]。[illegible]十五[illegible]。[illegible]、久世、[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
十一日 一時[illegible]出勤、[illegible]中松井[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

（つ）立ちとて、言語に絶す。山峰を出船に出でること、
多くとてくさり研究所（なにはと言語学の本位）。やがてこれ
てもなお動ついけよと。愛らしきをどるを本年まてぐらて帰し
とつみその眼ながめ（車中）。夕史下伯町山中二〇位の来
し。

四日左、朝南、之勢、雨ないゆく、午後下伯町かもしし拾る駅目と、
三野志ん（ヒ〇）「ヤーラ位」望の（ロ〇）角い、三郎をそうんかも、角
山「入イネ玄愛の法」をと、三郎を堀北氏へ（左）絵を。角い、之
郎を、武四素海（山中）。夜下伯町へオーいしもイゆく。

十三、七一五にて中山中麓い金石安達家へ本返し俗本治氏にゆく
和ようう、住田の文稿のまこと、哀れ、比林ちみ出走を陸
宅にの本吉橋道男と人まりて、一〇〇陸盤、山峰君敬を鉢位
ゆうとと、入にと二人出船にあり、七月七日出船を二本を。十七
日絵くると、就行善吉金の要れもしし「手」手すしう、
帰り雨また降る。度松とうらも、河西形之助「近代汽人論」の
方法。和合ヶ之日ヶ中毒様のにまと屋に出しまくと。

十四、なもも七一五、遠年ムまんま、カード拾入、酷に入るらし、
日暮に帰陸と。帰りの方史論双の移ってをゆとしし出ら
ず。経済丸まのとやんて深い絵ちきらし。（春秋社）

十五、七一五にのうてゆく、研究所門阪ヤて、れ、大学設立祝賀会の（高）西
金の伊ちのに「ふ」（中村君不快、あす市ふ舟文学」ちる書もれとて
金大へ出張と。月絵を流し、いな（堀伸茶を明ちとう
ち伸山高、家様手書二〇日。地域絵一〇五〇ヒ和ろへしと也、

満ふ事務のとて山田氏に出張とやから出るなどうるなどうるとを也。
帰り吉岡に寄「大和文学」の話ちし、伊田のを「ハ方賢」にをを和
ルとの論文、ふの氏を田書ふ文をこれこみ」と、下校相まる。まず
史論双の初校をせと、就寝しを。帰り雨ないゆる。夜林。
けん三郎を書者の対談関と、ふ会ヶ石橋氏和文
学科校校を。けん史、西賀茂中学へ入学。一年生八組（神十）
と。

十六、八、言家ちち、共同通信ふ会ヶ訪ちしまち来ヶ、就
ヶ（ヒ〇）して紹ちと来ヶ。中学校に骨ちくれし伊田氏ん
ちのみ同志社図書館にかを「キリシタン文学」ちと中電話ちる。
一一、三好合せともに文ちにゆく、田和哲士に会ヶ、一四…位見、
ふ（ヶ田和哲士ヶ）ちを善法の（様式）ちう、校正弱ちて帰る。和田
ちち陸来会ヶ、ちは要ちか。封田素海ちの和和不況い
入会ヶ之ちもいかや。

十七、（ロ）日後去動を命じられやとしに大陸陸ひるまい休ちしんやち
ちう、明ちも書左掃陸と、帰り和田ん之しんまだ之ヶ之、書海ヶ
校をとりまる。酷ヶ之まり三十日再び面会ヶゆくと、気ヶ書ちう、この
二日ともにたしし方ちかこうれんの時の最を之ヶ時、すみれ住く山ちばんヶ中
そひと去りちちんのひとにすぎしひとと

十八、家事、午後、友方ち化ヶ中ヶ入ヶ之ヶ中ヶ会ヶ和和ちのをこと。
会ヶ和ちと拾せしい古田伸ちを近藤会に勤ちると、古田校宮のちこ和ん
不快、委ちん会ヶ和田和哲ヶ紹介ちん、拾きけば彼ちの之ヶ
古い校ヶ会ヶ入ヶ君ちをこ。夜、雨、和田ちを伸ヶ。

四月十九日 欠勤（吉松宮図書館へ来りしるべき）一〇、三〇西宮
家にゆき来三升（十二〇）ろう可愛やし、豆飯たべ、帰りたるん
不了電をかけて、西のまた家君にゆきし毎人、帰えるまで海の
枝正ろり、夜明にいかく。

二十日 欠勤、吉山へゆくとし清れるる本方家元の墓地へ行く、様子
をみて駄目の行事にて人多し、一七、三〇樋口氏を西宮出人に来紹
けてもらうと人出て、任のかく、興奮とくしぶり会が、夜泊めて
うか（一、三〇就寝）。横浜く改めをゆき降りつく豆つかしと一
しまるはも

二十一日 保田出人に迷惑かけた、田主の汽車にて蛍鉄、宮本
宮まるしゆのを人々話す。旗は山親氏へかき。吉橋とに寄り
駄ケし来もって帰る。

二十二日 出勤、午後砂糖館長い会（に偉給前にもらしもらしし
と。帰り明日の事ろ人とせしい駄い閉ろ

二十三日 出勤（雨のりちて）伝高誠君いまてもなるる人多阪大行
ろるると。吉橋君いゆき中伝ろ、羽田に寄ろ事海の移を受取
る。ケよ文部者の人文科学研究費の書式来る。主査は野田氏。
夜下伝ケかく、母了ていた髪、冬出来て泊る

二十四日 四〇〇起を初裏の市電にて五、四四分羽行い乗る、一〇、三〇中
泊ゆは着、服部多いかく、一二〇〇事新婦（山下泊る）着、一四〇〇よ
り地震、父方叔父、叔母多く来り話し、一六〇〇二人送られ駅にかけ、
汽車出しまと、近鉄で宮着二二〇〇、下伝ケに泊る。帰りの電車
にて坂口元男に会てし。

二十五日（吉松宮図書館）八〇〇帰宅、羽田に一一〇〇ゆきて
話す。夜はでん文部者の人文科学研究費補助申請書
書く（西洋人の考した中国地誌の研究、二八〇〇）。角山より
「表紙」届く。羽金、立花へかき。

二十六日 出勤、人文科学研究費の書
類送る（廿五）、南満洲鉄道中国西南し。帰り下伝ケに寄洋
中して帰る五〇〇日区部出る。板橋駅に母迎えに来ると。

二十七日 六、五でやはり準備（けのし絵カード書、かれは洋書のタイ
プ、帰途、養徳社へゆき中国古図を買る。はお羽金君ろまた
電話、教育部長い話し会（紹介状）。

二十八日 養徳社（移転ちゅう）中国古図い話の結部のをいはは来たもの
ちゅうと。カードタイプ打ち続ける、一図向体をとる、ケよ法学の側
い図書館蔵社の紹介状を知る。すぐ、英語やるとをろ、山中
堂病ちゅう。夕方驟雨、平塚さんより、絵葉（三〇三）のハスを
出いる。羽金君ろまて三十日電話する。

二十九日 天長節、天皇誕生の日と改称、午後（羽田かケ西田さん
天氏と会い告口せしと、夫い妙事かるとと、大きい心配とる。不使
八文君ちゅかに、天氏ろ奥田氏おやまちゅ来し。夜芸作会、
山本氏薬剤大仕として沖縄で南部（糸満）六月ろ泊六人
ろもう生延び、一万五千（十四万中）の一人と。但出品生産者年
ろるるを出して動的。

三十日 家宅、伝ケよ下伝ケいろと母不在、午後東京中まて一〇〇〇
バター配給、夕方羽田へゆく、昼郵出二〇〇出る。

五月一日 メーデー。スハ中両、伏見にゆき小沼地を見、夕べ「光」買って見られ、一七・〇〇分、山崎にゆく。山本治雄共産党の顧問弁護士と。帰れば偽ビラ紙袋のバスにて下落合より帰り来る。

二日 一〇・〇〇市役所(田)和合君に会う。給料部長に組合より、差別撤廃しおくと、俸給一万円とこと勘定、共同通信にゆき住田君に会い一七月にもとこと云う。久世郡中学校、野口さんと稲君の宅宮永へ手紙書くこと、已につけよと也。帰って晩寝。この野口さんてきば。

三日 憲法記念日。朝「表現」のため「私の四首」作る。やゝ気に満つ。午後第六堂にゆきし仕事長君に会う。帰して下落合にゆき、昭和治雄を訪ね、中人男様にて去年十二月死す、一女を残す。七人の妹を養うと。勤をこやにて仕方をうんと。二一・四四の電車に乗り最終の市電にて帰宅。

(アンバンス氏と同車)

四日 一〇・三〇市役所(田)和合の組合にて教育長に会はんとし、一二・〇〇やっと会う。無意味。若干計画決定。山陽常任委員会を知り訪ね、「全体会」に会う。会決して話す。三野氏を訪ね、「金後頭」外一冊(三〇)。多方和田にゆく。ちょうどいろいろ待ってた。けよ和合君より電話。久世郡有志と面会日時を定む。

五日 子供の日。相田へゆく。和合君より電話。月曜にかくと決定。皆成社競馬。塩谷高子夫人と区事。塩谷はやく起きずと。四条三郎。丸山二氏と相談せんと。塩谷夫人。小宮根さんへ行かず。

六日 大三五三十五三五銀行へゆきしも上田君の外鈴木氏にて

知らず」の話の結果のこと。聖鏡、中村君法事の礼。聖鏡、中村君法事の礼。
夕、摩耶君より「代金書状」と「津田双書」来る。
住ところ。帰り意外私にやとせ。もらい。和田に寄って田中
君と地代月賃決す。久世中学地田校長より連絡。早く
会いたしと。明日中人か。

五月七日 ㊐。時事通信社(田)伊勢田の久
文氏(府教育委員)(会)うえ村もいらって伊勢田の久
世中学校長に会いけり。不在。偽俸よくなく勤務
もきつ。もしも校長も不地方中山学校長に会い
ようとわし伝ると、一の宮。伏見城にゆきて昼食。二〇・〇〇
和合君にて教育委員会決定。帰宅。下落合にゆき
ば父中学校(やくもの)。二三・〇〇帰宅。同じ和合氏より
来る。

八日 人口会館にて(やくもの)(会)中日和町より宇治谷
氏を西坂口を訪ねし人伝う。六人は豊中人住
わと。会館にて会合。
すと。平松地区にて用務社会にて来住氏を訪ね。
野淀を上ると、仕事と大なる家へ
と、勤
ちょうどいろいろ帰宅。帰りて今日。
ケの酒石井宮永の区事。
酒。祝祭
九日 差結
社にて
丸山氏
欽氏新入を推へ

とて、そこつ[illegible]なる[illegible]。夜間、[illegible]。金井さん本社を[illegible]。帰り宮崎屋へ寄り一〇。後の、[illegible]て三[illegible]。金[illegible]狐(神さま)。夜[illegible]。生

細山書房より[illegible]。

五月十日 出勤、一〇〇。見井君より地位の[illegible]、[illegible]二[illegible]。地位目録を編み、宮崎屋[illegible]。宮崎屋[illegible]「亜細亜大概説」[illegible]。帰りて疲れて不機嫌。けの松井を経て[illegible]「神さま」黄金。

五月十一日 出勤、書房への入口に柵設く。外注の[illegible]。[illegible]。見井君より[illegible]。宮崎屋[illegible]。[illegible]。見井君と同車して帰り[illegible]。

五月十二日 出勤、[illegible]八木[illegible]。[illegible]。午後俸給八四九四中、家族手当二四〇。十銭[illegible]。

五月十三日 出勤、[illegible]。[illegible]。[illegible]。

二三日又へうう嘆息、四四人の無知の冷酷に走りて憤る。
午後、桑田氏へ手紙出す。来週水曜の会を中止のこと。夕方
入浴。大変のプロフィサと云はれんと三日ぶりにやっと成はし。この二夜やめ
いたりしはかめひと中ぬまいって書ひとりつれなし。
五月十九日 出勤、慶応五名のあるを見て来と。中村幸彦氏を「山崎四郎
長不始末」と。一五〇〇円。和田夫人写退院せらし。けさ切り
薔薇と日東。
二十日 出勤。この間退職せし(野)中嬢来りハガキ来る。石塚氏来ら
れ管長のうせし自動車いりやる。山中嬢と勤。二十三大
学事務局。帰り雨雷。午後地図目録作る「カラスはしも
ならんは来てちしてうそみと」「しこ」「ちるべもものを」中島明夫氏
いハガキ。夕方和田いとを見井君の月給の仕方のこと、夫人退院
とのうれし。
二十一日 出勤、ソ聯の引揚げ者百人。月給の後、賞与みと定まる。
ちやめ咲く池に出でつじ咲く丘べをあゆむうぐひすかれら。帰り途
ゆんを。
二十二日(日) 朝和田へ行くもうく、午後芸術社会義の会野を聞き
ゆし。伊藤ん菓子(一七五)位(事)、いろいろと話る。昭和十七年
三月ん台の北支を出て知るいの人と、ひを仁遠ん会にて
し。一五〇〇すぎて友人南田の未平知久訪ねんみて。土一二〇。
また知母、甚青と話す。水曜ん今れん城平知久とともんあるを
訪ねることと。富美子住宅の義をもうそしと。今秋金
紙をかいぐ。母地移ひのうへ家色変ずる長者二三、一五、京

五月 て帰宅。帰りて之て今、女角ん君来明日家へ来よと。
二十三日 朝田来る。徒ん方しが金使りるもとの事。一四三〇あて
家を出て研究所に出で見井君ハハ(ヒ)の会の影響史料。
之の清代地図」とつ、東方文化研究所編集協会の相談、
三枝氏の「社会と科学」、新大の大学生文化運動指導。
藤松ん「移動世界史」第合冊もん、蜂屋師の手紙ん来
ん角ん君帰京、家之者ん来「知先生」宅ん、まく引返して
三十分はるか帰京、明日七一八時ん来く住さと帰る。
二十四日 出。家を出て午後ん角ん君を訪ん、編輯者の長谷川巳之吉氏
岩波(波)ちう、文庫の話、和田先生の「島木赤彦(茂吉)」地る。
「四季」出すとう、「ハイネ苦学時代」の名ん「花のゴ」と月末ひんと伝来
丹波市一二〇、中村氏と社会会ん出て座会「解散」と。帰り八木書ん
手伝う。茂作社一九三三和君のマルキシズムをつ。和田ん来しも不在、
帰れば桑田氏ん「逆事」会ん用ありしと。
二十五日 出勤、一〇〇〇和田ん中ん脈ん。もうへずと、五不知国。
月末ん来て今津ん来宮と鋼材ん来平知久訪ねれ。
城平知久来、冷酷なる態と返ん、文のをんしんのこと、帰
りて父ん会へばいろいろと出ること。帰りて来ん。
二十六日 出勤、午後芸術会とび休み。ちやめ咲く池をかくれんぼと鶴
べる。
二十七日 出勤、石塚氏と同車、午後急来ん出る、夕方山本次郎来訪
す。
二十八日 出勤の途和田と一緒ん出る。仕事不快、帰りあやめ池、気合わ

ず」と。羽田より[illegible]帰郷せりと。

六月二十九日(土) 昨夕まるみより出でしが来る。一日来んみて夕方発

歴書みく。

三十日 出勤、[illegible]井君来る、本社三田[illegible]君に頼むることヲ、一時、○退社

藤井[illegible]又要日[illegible]即位式を拝し、金[illegible]森[illegible]女のこと伝らる。」

[illegible]の同[illegible]と、[illegible]の方宅しらうとの伝ありし、[illegible]の新婚

[illegible]伯[illegible]木[illegible]帰る。二二、三。

三十一日、七、一五の各行のれち、靴[illegible]中道にて中ケ谷逢ひ[illegible]

協[illegible]て花紙、慶松[illegible]現地[illegible]ことを話す[illegible]。[illegible]

[illegible]君[illegible]。[illegible]帰る。[illegible]

くと(二四〇)。羽田[illegible]

六月一日 中[illegible]市[illegible]空襲、山崎君研[illegible]所へ紹介[illegible]、帰り

五万円[illegible]る。[illegible]四七三〇[illegible]

て帰る。羽田中[illegible]敬[illegible]帰る。

二日 九〇〇家を出、[illegible]本[illegible]一八〇、一五[illegible]、

一二、〇〇[illegible]。帰[illegible]羽田[illegible]

[illegible]、[illegible]

角[illegible]「表紙」[illegible]月号。

三日 七〇〇家を出、[illegible]西[illegible]一[illegible]。午後

お[illegible]。[illegible]。

四日 [illegible]井君来しくしく手紙[illegible]り、講演再来週[illegible]

と、又[illegible]慶松君同じ[illegible]。五

[illegible]

[illegible]、代[illegible]と言はると。[illegible]載る

乗る。よへわれも来しと。

六月五日(日) 九三〇[illegible]来り帝国[illegible]慶松[illegible]

退職[illegible]。一時、三〇羽田へ[illegible]慶松[illegible]

こと東[illegible]。[illegible]一二〇[illegible]。[illegible]

金[illegible]。[illegible]。[illegible]

出[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

六日 一〇〇家を出、[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]、[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。

り陸路を帰りの伝義君に会よ、おしまるる。ケよハ木壊早
速と葉信のしらせを休み。和田名宅水曜三時ごろ。
六月十一日 七、一五に起きもれ、一五着。帰り伝義君に葉書所。夕食
たべて帰れば二二。けの母来りて一〇〇貸しくれと。ちゃみ喫く
伝べんをしてゆくまで待りてをれば中のひとしも。
十二日 ひるや、散髪。和田いやは翌朝の棚作もある。
十三日 出勤。停電九〇〇日飯もらる。吾伯父とやとん組合うる、夜多陸
名と、力木地ひ組立て八木を二ふ。十番ラ本電低と。
十四日 出勤。所長は二日ぶり。十五、十七と月。市電のうを三ぶきをうる。
帰りに帰宅ゆくスクールおいる(30×2)。帰って明日の地図の話り
準備ラ。
十五日 朝準備ラ。一三〇〇。筒井郎来る。付たって来てゆく。天神之之
助、長庭三、外山果に、三日和泉助和口と之を来る。思こんまます。志治
の意不出来ラ。帰って散歩ラ帰りし二人行ラ夕食ふ。二〇〇迄
りあす。
十六日 雨。八二に駅まで中そしも七、五五。一〇〇。著を雑誌ら返る、廣
松君地図作りて表松に孫ケてはいとりに来をとつしに。不快。
此日の講演のうるして出不快。八木壊に来るみてた。ちょう。伝義君
来り朝鮮語学生任まれしらはおり、山崎君之朝鮮之三名と、出発。
帰りに母来り二五〇しるやもし。不安をる。仕し伝義君のうは
二月三十三、の日記ノ子。
十七日 ひるやバス市電低と、今七ひるいやを(一〇)市電ん中ラ。伝義君ひゆ、
きしん登校と、学校を訪ひしも方、後ん訪ひ来ラ。朝鮮語絵

典のをつてかはしし、ひとを会ふる人なりせを電話ラ
地図作成と葉信来と、わ山吉校をうし時教作りおしわ来社作
ラ。不快を来らる。ひとせ又安は不外語へをうにやもしを
日後ひはちうとる。けの八木壊に人ひまわそ。
六月
十八日 出勤。和世幸の西をえしを、ひと両、小両のる丘べのおみ
ろうみそとひと典(ちわやあれし、かうとぎみ方りしをうち
ひ(りひ)ゆくこうわとやしき。
十九日(月) 大雨のうれを行ケ伝(安山世吉)高弘ん旗は代講演。
ナみを服和孔逸氏の孫数之子」ラ話をこき、名「表貴之学」
橋ひをを入ラ表をを山崎名をの外ん西和田を名をて聴数
二十表名。橋田氏さそいし帰る。和田ん来ラ夕ん之借る。けの向
川君ラ手紙ハイネ、回来、和田ををのを。
二十日 雨。出勤。七、一五の系行んのる。見井君来り二〇〇ラ雨ラ御礼
ん。廣松君ラ分ケ、地図十冊を安方之化まれとりんケと、午後
外人を安ん、八木壊来二ケを三〇〇ん解ケ。る。伊波橋のとりし
ラ。ひし(山崎と同車)。
二十一日 大雨。出勤。ハイネやる。夕方和田ハケば不良。明石君と孔
人と世ん孔駆逐ととうる
二十二日 晴。出勤。地図やる。和田ハケを二〇〇のをつ(はとうかけを。
二十三日 晴。出勤。一七〇〇ラ。強ラんおををしやめて強くゆくれん
とうらんとつ(ばとつ)ラ。
二十四日 出勤。ラ(洗)を、伝義君と同車。地図やり、洋書久しがりの二冊。
要日陸七無俸給と。廣松君ラ八かキ。

六月二十五日 出勤、午後新橋まで行きしに、出張中、山崎君「秋水」一二〇の受取かいす。京橋の壊病院を出張して病院かくに会う。七時つくしの花をつみ来れば稲田の上に風吹きもれる。

二十六日(日) ハイネの詩ほとんどすむ。夕方和田にゆく、中野君とそこで便り、三浦をそこに呼ぶこと。中野君ちょうせしと。

二十七日 出勤、黒井君来らず、帰りに森で三男女の弟君に会う、きつねげん話し喫茶店へつれかく。侯爵の末弟島岡直記と政治方法のことを喧嘩せしこと。依義誠君弟君のことを持ってきて喧嘩と。孫二首手紙はものかをちょうかい借りの印をとる君をくやしむ。そこすちに許しをはたと的木では言をうばりしも悔みるたりき。

二十八日 出勤、きつねはと地誌にて庭園、国体論はの会をて定金八年耳らかしと。(けて山崎と同車、の人気をる顔しあてう)。角山の佐藤仁君より手紙、ふはせたこと。史り担任中名を家族訪問、将来手紙やる気をを答ヒ。

三十九日 出勤、神経ちかおり一六〇〇より少く。帰宅二一、三〇。ちはんをる男とちで弱にれそんすがたのことは見せしと思つと。

三十日 中野と帰りと雨、父に寄り母より七〇。佐藤、生徒を高明の小学。依ふ弓おもしろい八本足の手紙なく。

七月一日 業之堂(中)七〇。掛ヨ、八、五いろ石法をを同車、女海旅行を弟子を長子方へ移しと工場当古敬を名新聞に見る。アとおとの左崎か。山崎ろう一二〇。受取る。佐藤の手紙の医事八本足もも。大玄社の上を面井を生要出して来る。石法と生と三人にて高橋にゆく、ちょうらに寄る銀座に司書、司書神の職所新のをて送迎るに長木で中座、依義君とを来(弁二百)を世話してもらい帰る。ソ新をの引揚者敬臣と取歌本横の浜、芳賀服部、大ちハ四キ。

六月

二日 出勤、ちょう不快、きのうを中和動館長に(小館長と同去るりしん手ハる。八本嬢ふ佐さん水素挑を拒す。帰山母まり子子つりしと。[illegible]ちょうかどんにおりやくんは妻をかてとしらが。新竹の三野先に寄ろ方の印人会と寄をと。

三日(日) 一日家にてハイネを記し、ちょうを書をてふ(三十枚)

「女面方四首」作り正す。和田に手ゆけば元気。

四日 出勤、研究の仲で話ない活動、一ヶ年後ちもれ仕許をを。の時、八本嬢と二見手紙なも交換、(入線) 町田嬢結婚の事、帰りてハイネの翻ばり。

五日 出勤の途南にはきの駅前で31歳ちとを産党に住(八出来と、民主と新聞家を抵抗でまりしを。金井ちいたけば「私君行をの区山道」と、新井女「生活のその国多館に非ず」と、不快。地方ずゑ。帰り雨。ハイネ(ちかんつけ、ちをいす。

六日 雨、ちへ停電、久勤するをず、ハイネ和を(十五)年を[illegible]ちず。書庫整せしのみ。中野ちと見を医院なく。

七日 出勤、地位の外に女婦を産子こし、山中嬢と帰る、生の多の路のまず、つらし、表紙七月号。

八日 出勤、逸作ばいまんをしなを出ず、依義君に弱経法の依住

す。鈴はつよく不快。帰り父の所へ寄こした母手紙のことを聞く。

七月一日　出勤。日出は明日と、前山氏十吉とおばあさんと麻浦す。はがきが
けん出をと同車、九(りの車賃をしてきと。夕八こ無心をみてまわる。一〇。
田八木嶺を借用。三郎氏をもらかす。出版のこと。はそこもの名(への木
名は坐りあてかりしことはわれ動とのゆめ、ゆめを忘るるのこをとれに二ひとし
てそれもひとつのうつくしいる。

十日(日)　大(のハがき送り来る(佐竹氏不在と)、西宮氏夫人ゆきをへハがき。
夕方雨(へもしも不在。はの史下絵行へきき五。

十一日　暑し。出版はなかつく、午後服部来るみとおん「李朝名作集」
が素新、鈴木氏の「大和文学」廣和をもく、男おもれしと。相変らず変
な男ら。伝義誠ていい金来さず、毎力の男ら。あす歓送近会
と、夜郎出張を申出つ。二階堂ら乗る。

十二日　力雨。方にの最毎ら手紙。書すぞ。ふたいかを異井ら廣松の地
張変取る。帰り三路おん家ら夕食後和田いをやしばらく語て。

十三日　出勤。午ておん会の世話役。辺田ら手のサイダー一ひかさん。う
ち送て、座松ら地話わそしお張松費二〇四もら、月給もらい一一
九八四一級金一三九四十×二一〇三四一。新田氏の池のはたんおることはし、
三郎おん手り「近代詩人集」(三二〇)。裁髪(二〇)。何もしもわがまい
んるそつるひとのうかんかそしむれは。

十四日　出張。服部夕方ゆきて母はるに来る。絵書へゆえ
しと。風涼し丘のべんちむ。出発の詩人の話をはきみうべ。
まるふ郎山取え国で和ゆのはん金ちふい。はの手紙。おしか。

七日ちゃ郎山て国分ロ文へ山の平坂迎。会議はのこうへ登院。みる湖
て新田氏。山田。木津。樫をへゆき来をく。と話し。保は家へかく。

十六日　任田母おそく起て朝飯ちゃ。角こ体しちゃ。九田八の汽車はのみず
電をいへかく。まゆ氏一人会。「敦賀ち弥生」。図書館「夕光一三」。
地図すて。ハイネと任田のちちのかんかん「ピアノ」。はちす。喜伝れいゆを
鈴木治氏挨拶。はの暑し。夏はみり日直。明日をさて三日あり。上野
石川ら出しもの曜は外手吉をしと。う雷。

十七日(日)　ちちら仕み。畫寝し入浴す。和田丹波ゆきしと。史跡園祭之
ふゆきし。

十八日　地方日鈴体製。医局。午後区役所へ。ゆと。下絵すいゆ
きしも雨ふ会。地ちすみ。おとは清書。

十九日　午前中区役所へゆき。宮谷証明書とる。午後大と
りんゆく。京の事名も出来るち。和田へかく。「佛人を捨ちいこ。
ゆてくと。李朝名作集とゆ。角山へ人かき書く。屋敷
ふしゆちゆ後ちゆ。

二十日　夏ふ入と。九ちのちて南へゆき桃山城をもぐる。出ちろいつもおどろき
かがまそつ元もちるつれ元ちれん。「生化苦略」と地話用の紙もら帰る。

二十一日　往日家ち。地伝ゆる。

二十二日　同。夕方入浴。

二十三日　家ち

二十四日　同　略ちちハがき。神田氏らの運動も初ちちしと。われおも屋
してそれば夏山の雲もたずして三日四日を経め。みそとかおゆ伝ちなて生
けるとかのをとめるばいのはおもへる。

二十四日　略ると吉仁とんハがき。地話日鈴ゆしてて研究室ハゆ出里井氏不

在、母方の祖父八幡君、備を離れて十日市住せり。帰り下給ケ山中
父、連の家に来て不快のことなどがて帰りし父を送る。三野宮氏に
事務「南」を託す。大石「清代通史」二冊来あり。
七月三日 家居暑し。同かね子嬢来り、八月一日(〇〇〇来)を
イとり宮参(三〇〇)。
三十七日 曇り。八木山中二嬢来訪、工藤西仙と上京来り
居る、上野表社に深沈地に暑し。暑くなる。帰りて書一冊、一五、三〇倍
ち、体力三十日まで。
二十八日 大へハイネ新訳第十和篇訳了、中之羽はへやとした「家庭を捨
上の後とれい西は老人出てくれとつれし由。家風合はるを記ゆとする
ち、不快、ハイネ「いろとりとりまでいすむ。大へんおも。
二十九日 雨、涼しく、ハイネ五十枚。子どもかあいく哀れ。ゆえる
哀れい春気ろう。みな。
三十日 佐之(ゆく途中)、西田の婚約松氏に接拶する。母をなく不快ろう。
康平松文の詩(中は宮字、叔母い文のを話して帰る。五女里帰り
しおとり。帰れば八幡ろう二女いかが。かえしそにうたくるう能き。
ちゃかやしおれいをみは会はゆは。
三十一日 ハイネ八十枚、二女八木山中西嬢い手紙えく。夕方ろう地し。
細川書房ろう宮参屋れた。
八月一日 九、三〇 国松和子女来訪、廿之君との高愛て、弘人ろう詩
宮きて一三〇。録去、夜下給ケ山中之父母と話す、建来ず。
帰宅氏ろう七日の会の通知。
この夜 本ろう暑中之舞、来さと時論に野宮三郎氏へ。午後砲
星君来訪、天理のを話し野田君いとしにゆを高宮がへのをいへば反
對す。一八〇〇退去、馬丸車庫で別る。下給ケ山へかんとせしかとめ
史出た。
三日 一〇〇〇家を出て下給ケ山寄しろ多郎駅、安山、佐之国田へく、
多郎知文、一九〇〇帰宅、話せしの冷酷ろ、母をつ、長女の婚帰り会
ひしのち安をて本宮に出、筒井宅(本ね小給ケ来)へゆけば教歩、二三〇帰
りしと話し二〇〇帰る、かの母を見かる重宝廣ろ。
四日 筒井とともに久志田車駅へゆく、話ち立〇〇くれ、市地十一ト
しんそる。自轉車に乗て横尾術道へ下ゆそれ別れて内田の内
野へゆく、吉郎中を心ゆそる、姉君、奈良せ学校の事情(明治八
九年)に中山教祖の孫と同期なりしと。一二〇〇出て田村へ出て不
在、同郎君を訪へば三週と教者解散せし。大阪へ出て帰
る(二三〇)。
五日 九〇〇ろ眼を覚まし書読みを小木之人の面会に訪れまを帰る。みな
へ二名ゆそしおを宮今、中野ゆそ君ろ八ろ、細川書房へ寄る、野上に
礼状、夜八時。
六日 一〇〇〇羽田へゆそて起し、いろ〳〵苦事後はをし、下給ケ山中松
父へ会よ、寒之出をゆそ手洗松双書十三冊(大五〇)と江南之化南張史(一五〇)
とを送(たのみ「イスラム、イエ、チャイナ」一三〇)にて引取らし、内田銀蔵「日本国
体(三〇)」近ちにて買い、下給ケ山へ寄る一行ゆそもらえ帰る。亀井、同かね子
来去ろ八ろ。天野お女い会を教後一時間、帰宅
七日(日) 同じろ郵便屋、中野君への通信をとをて一二三〇家を出、堺
午飯上ん七西仲一ゆ(文志後三)之の八人会いゆく、これ小会とろ。

（二行三〇字、約四行分ト）

[illegible]君の書籍を[illegible]テ[illegible]（[illegible]し[illegible]統[illegible]し）。一八、三〇帰る。

八月八日　[illegible]篇、一一〇まで下編[illegible]、一三、三〇[illegible]江州野洲[illegible]

いゆく、暑く大のしまり、父母やてしきもかしし。帰りて眠る。

九日　晴、八〇〇家をでて(2)で一時間近く[illegible]（今より、月給日十五と。一七、三〇天

[illegible]帰れば[illegible]一三〇まで[illegible]、夜電話のこと「明日一〇〇〇来ること」

[illegible]「表紙」八月号まる。[illegible]「[illegible]論」八月号[illegible]。夏花の

しゆる[illegible]をこれはでるかれかこれをばとは推める。

十日　一〇〇〇来た再来、豊食、夕食をして食[illegible]話永[illegible]、筒井[illegible]ぬく

[illegible]をくれた。「南[illegible]高校[illegible]」[illegible]話して見んと。一九〇〇帰る。

兄の[illegible]通[illegible]我い同じとて通じ[illegible]。妻一[illegible]暑中見舞。

十一日　一〇〇〇[illegible]のもの[illegible]。妻一と[illegible]井[illegible]へかき。図書館

「[illegible]十五[illegible]給とん来た。西[illegible]人会[illegible]」[illegible]。

十二日　家[illegible]、八イネ「新[illegible]」の[illegible]の部[illegible]。夕方入浴。

細川書房[illegible]。

十三日　朝、母来る。[illegible]天理へ、西の[illegible]。午後月給も

[illegible]西仏食[illegible]、[illegible]不快、午後月給[illegible]（[illegible]

の[illegible]へかき。）[illegible]井[illegible]（行[illegible]）[illegible]、下[illegible]

[illegible]女[illegible]字[illegible]、帰[illegible]。

十四日(日)　伏見へゆく、お[illegible][illegible]中、電話[illegible]

[illegible]と、山崎[illegible]。二〇〇まで帰宅。おうづ[illegible]

わかれぎはのありのへりにるとろうんとも

十五日　朝[illegible]来る「[illegible]」[illegible]。[illegible]

[illegible]論[illegible]「世界」[illegible]。豊食後[illegible]野口君[illegible]（[illegible]

「[illegible]」[illegible]。[illegible]来て[illegible]不在「[illegible]」[illegible]

へゆく」。帰り下編[illegible]。[illegible]食の行事[illegible]。帰

りて夕食後[illegible]へゆく。[illegible]（[illegible]）[illegible]「[illegible]」

[illegible]」。

十六日　家居[illegible]。[illegible]。[illegible]。「[illegible]」

[illegible]。「[illegible]」来る。大文字山の火。[illegible]

字を見るよりはいつの[illegible]。

十七日　「ゲーテ」[illegible]。[illegible]倫の[illegible]、午後[illegible]

[illegible]。[illegible]「[illegible]」[illegible]。[illegible]

文献要目」[illegible]（四五〇）、下編[illegible]。[illegible]集三冊[illegible]

[illegible]。「月下の一群」五〇円と。

十八日　家[illegible]、[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

十九日　[illegible]、[illegible]新[illegible]「[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]。

「ゲーテ」[illegible]。

二十日　伏見、[illegible]野隆三へかえし、不在、くどくどと同じことをくりかえす。

はがきのこれはそうした[illegible]。

二十一日　暑し、ゲーテを[illegible]野[illegible]。「[illegible]」[illegible]。

[illegible]。帰れば[illegible]書[illegible]人[illegible]見[illegible]。

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]へかえ[illegible]。

二十二日　入浴せずの[illegible]。

二十三日　暑し、午後[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]。

二十四日 夕八ツ配給「清酒給」すでに終らん。夜歸宅君にゃそんイカの
を多くもいたるんにて不アかいるか問よ「ちがうん、我らも話して之んと。ふ
い活ちゃかた。

二十五日 「清酒給」終る。菅谷節子ちゃかた「郵便一ケを見つけよと。午後
紙魚をつゆ壁あげ掃除。

二十六日 雨。「ケーテ」三十才位。いつも哀愁「ひとりぼっちにて」はっかいさん。
ひねもすを君をおもひてひとりぼっちにてちゃ夕方をすると。夜の
田んぼをうイスキー場か。

二十七日 家を、掃し、一日暮す。

二十八日 (日) 来客なし。田村長雄ちゃ「来月三日(日)父君十三回忌」と。砂糖配給。

二十九日 八〇〇家を出、三班行の庄勘宅(九三五)、四名等と上ロ一班君
へ会ふ。玄米食やりをして、京橋君へ行き、新と巻タバコ貰ってもら
ひ再訪を約して出、図書館にゆけば、矢井せよ不在、八本君ちゃ出
二外と無花果をもらひ京橋君へちゃ球宅へ。一七、一八のうち
帰ってお知ちゃ「妹弟等へ手紙出せと。

三十日 雨、やむと同時に家を出、一〇、一五いつる。くらを雲かかってるけを
おもはでる敷へ入らんとうつきし。帰れば山本夫人発狂。哀れ
ちゃ。「ふんおオ」の今四日にと。

三十一日 秋が生活の最要の時を。カカア殿卵一ケを使へ始よ。午後出て
大学いかく、見井君地図自転の不審紙を、郵便師の住所を。
東方文化研究所へ寄ってみたが、中島のを承る。「四キロ
弓場を通るカーブもらえた」とこれを出、出て学術図書館の話をし
ケ山一三、三〇ちゃん玄関へ。伝ひ山へ探しと帰って総ケ山寄り

帰れば一八、三。山本夫人相不幸狂乱。母君と立年これ暮らしと。
九時ちゃ寝、七一五いつる九〇〇の頃入ったあらし。帰宅の之光屋まり
「原大ちゃ」と問よ。杉浦ちゃ手紙、玄中鉄ちゃ来ちゃの、職を組合の協代
ちゃとして、カーバイト坪入せしめ、帰り右衛の京橋君へ寄る。

二日 出勤、電文をく鈴木氏へ書ちゃ一〇、三〇着、二壜と巻法やり、帰
り京橋君へ寄り一時間ばかりを帰る。山本夫人メレスをて経過を聞
し由。

三日 土曜、藪君手伝して地図大新やる。西ちゃ一上二一ー荷丹
を、大江知母知之に話し、「虎紙」を飲ろへ十数年ぶり会の
「弟塩山へ在」ひいまちをすし」と。二四〇〇すぎ帰り、一〇〇〇ちゃ就寝

四日(日) 一〇〇〇ちゃ東京知人来会、家を出、帰宅、母来会なり。
ひ帰り、田中ちゃ「新聞」買もらって帰宅、母来会なり。
砂糖君来まと、つんおオの会へ、ケーテ山ばを「新しい家」二千
部来月ちゃ出まると。下紙へ「駆けて帰る。サの不機嫌。来
ち。ちゃ「今中英語教師」と、楚中君ちゃ「鈴木中君」動ち。山教
ちゃ。

五日 出勤、畫移手洗ちゃ尾西氏来訪、主ち「晩ちゃ」田舎ち金
ちゃ困ち、未買はぬかと、京橋君四五人ちゃ「一回」両仕ち
夜明田へ行きケ山「大阪の来客接待」と。某高校の夜学に強し
ちゃ人と。

六日 出勤、伝記ちゃ中学への手紙ちゃし、ち楚中氏ちゃ話と教ちゃ医ちゃ。
来ち。菅谷節子へ八日ち。

七日 出勤、高橋君ちゃ「ケーテ」問ちゃ合ちゃし、研究ちゃ書へるちゃと

ることと、帰りに高橋さん寄り、ひき敗れたれどしるべるため明後日泊まってくれることを。

九月分出勤の途高橋さん寄り「家本喜子預る。図書館四二〇円」で買えるため、日給十五日と、雑長五分給の増額命じられる。

「洋書のカード挿入と整理と地図十部つくる日課とす。夜明日にかけ仕事移すを活して足しも効体るより、一ぱいのこと。」

九日 高橋君とつかまれたれど、泊まってくれる。けさ夢さめて同様女人会「月報図書館（まる）」と。

十日 高橋君十時から陸能。ちが帝で陸に移る。久しぶり分類の監督と仕事をしかけの仕事をしたりと山崎君の証明（ゆくことをきし）。書館がんばって帰る。「高橋さん、また身重と。下紙ケ寄ればこの和歌を」。「あす来よってもおく。島崎より手紙、芳野清より分ち、和会法を」「法学部新聞に出ると。」 ちが大阪にこの本場をもし大人ちがとなりんし大きなものの力

十一日（日） 雨。去いにくるかも、午後出て三時出「出しにくいかもしれて不在。

十二日 雨。去いにくるかも、午後出て三時出「出しにくいかもしれて不在。

下紙ケ寄って一〇〇円、和会のもの「法学部新聞」蔵書の「と、「近と交れん事話なると、去れの時のかに会をとひし」

「地方で近ってきて一〇〇円、帰りに野あまり話のるん下来して話をけ十二日まで撮影去来と、やっぱりなる。

十三日 早く家を出て、芝浦まで歩く。仕事誠を書きしかばかりしん翻訳語録集の会三〇〇円出る、すぐ、民族学研究四号（八〇）、トルコ語辞典（二〇）借る。帰り書に出勤のもの。

十四日 雨、電車でぬれんとと、一緒となる、傘を安達分で借りてやく、仕事君

一〇〇円をもらって四〇円渡して帳消をす。高橋君の後いろ本に研究日は司書研究会のみと。服部さんの中、「愛と豊の分校に講師」と、ぜひ来る多忙。

九月十四日 一時向ってくれて出発、行って仕事をし、中村君にて帰る。

借りる。

十五日 下痢、月給とる日勤、九〇〇円。もらう、書庫もまで、SKと職業をして変。

帰りに山崎君（山田）（3）出入法中。

十六日 朝雨、出勤、下紙ケ寄れる文母同左の山そし、久しぶりて来を発く。「建千葉より便りと、千葉を出い怒れの不快、帰りて和田いく、「日比谷出（ちょっと通り）高田貸と、「理屈はもと言うと、来たらず手紙」「関西用い屋敷書きは、今年は断られと、夜りしも書く。路君「日比に来りて、建寄。

十七日 出勤、帰れば去い幸に助信去り「電話受り「講演（十月一日）の題」「せを、建より来「用上海相談せを。暑し、夏の日の方をひを和山の桔梗の花いとほしみる。

十八日（日） 母来り一泊。プラスとなると、高君来る和田いを帰りて書一食べるか、一泊。三野去れてきてしまオ2受る、入をるいを話花生の畑作りを見、「浦松齢の法号性」との題を去山先生の信言ちるみ、婦田氏のかけ「受る受を生ハ不方法ん話しを人」を。断りを理入信のをこ（仕をみ、帰て入信、をるの久をし。

十九日 出勤、この時司書室を総載して帰し。大江和田（信金のこと）より伝記おいわるる。「不三人月の。パイプ。

二十日 雨、出勤、散歩いを豚肉で一〇〇円と、帰り書記れ（不仕方田書年

の代り 塚野道助、すぐ。下紙つきの大の「帰り来り」を。「千葉定彰之、母子郷せる」、靴たるを帰る。

九月二十五 出勤、この頃、疲れと運動せず、気ならずまれなるも、組合支部会。

隣村平吉宅訪れて五部一（上野君と）「血管拡張ちゃと肉を要求する」やきやにて、ハ木嬢無花果沢山。足道家へ寄し山より女母帰る。帰れば角川より八くの校正、八木絶て二十四頁。

二十六 出勤、八木嬢に中村君居残り命ぜしとて断らしむ、不快。

雨にて足道家にて午後、八くの校正を夜半了す。

二十七 秋季皇霊祭、出ずして速達「校正は原稿書きし見込みなし」、二十八日ならまでの間に来る」と。午後新免君に校正を送るべく、帰り羽田貞雄氏「西田君世話しくれさしめよ」

歴書書けて。

二十八 土曜、七、四四にて中を伏見城に宮り送達、京橋家に中医部、杉浦まるし会にてをしゃもて、中村君の妻人なるを決断す。金井を帰り、中村仙の妻人を知るをおそれしを喋る。送るべく脱をて、帰宅、明日より当分休むを予。

二十九 朝の中、経歴書を羽田に届く、妻一人（稔君来り年表を地図久せる。羽田にたくん放送、まだ分不在、脱ぎたるもの仕方なし。

午健康保険の補償費、駅目と迂り返し来る。夕方来て江州の帰りとて寄り「国大ゆくらはつ」と、呈紙、羽田出かけ金国丈夫の合巻の兵面白かりし。

二十九 九の家を出、家春西を寄り分ちの迂回して帰宅、校正を訪ね、父り話まに気の毒なり二〇〇〇元、明後野稿の中を予を

病院に中村春雄を訪ね家（ともに来て泊る、沢田の印仏帰りとして

他筆集出す。

九月二十七 春雄とともに出、予役所に中を筒井に会ひしも面会未吉、吹田山をともに不在、一三〇家に帰り書寝。夜羽田に中をしる。

二十八 出勤、一〇三〇職組合、図書館より弱体ならず組合をなるべ、ちょうど定期切れるいはを出勤せず、ハ木嬢家へ帰り金を来る、京本ちゃ、帰って紙四ん寄りしん雲と、帰って伝紀を南を脱ぎて、けわ明部、鳥稔へ向も。甚幸をを迂しん来る。

二十九 羽仙にて二七と下紙をいたせ、会わ、不快、一三〇。新を陸にて左の南高いを来吉計算をし三〇。佐る、そなる、帰り、去野吉女に寄鳴外「畏魂録」（一〇！）買て、俊青年氏と子話して帰る、夜建来る、安り一〇〇。

佐医会可能と。佐る鞍馬（医を。

三十 久勤、陳紙の杉村氏人、市役の中を書とる来る、午後をて吉の幸の中を生（中く金中田村松校に会わ、春佐の安義君の名を会、吉の生を（建村）の聊前遺稿」ていを、去を自筆ていを見つる去方を佐に校を話し、を浮史研究をに引返してつる帰る。（金中大拡「言海」を買る、四〇円!!）

十月一 出勤、一三〇。出（家を出、隣りそいでやしてしん〈来て」喋来、仙肉つ

いに国る、平井医師に伝ずる（仙田吟居の鉄筋にて等地とと）、神田を屋「蕃女の祖父の飯陽駅伝」、アラビヤ人ことはを」と、後吾寄来。すみて一七〇。

すむ、けり支部学会長那波多重る島島のをつ来る。沖縄千葉代りかき「山沢

ナマの女（ナ一頁仏坊内の鉄板を」、野内を印仏を迂り返し来る、不快。

二日（一） 八木嬢来二外墨ゆ（て来訪、送りて伝人ちをしれ川崎不在、去婦を

い寄りしも「校正まだ」と。

十月三日、二嬢と英法や、組合支部会、共産党撃滅と反戦とをとりけて文教部要求しまる。長々の遅、荒川、金井氏と共に高遠、うどん、八木嬢会の某会長に紹介しくれんとしたるも「明日」とうて帰る。帰りに寄れば岡村氏出来るいしを辞し、長谷川出来ずるに手紙かきし様よ。なお高松二中を移せへ、「日ろ宇治」とうたるとう。また市民館りんりん「会」の給与証明書もらう。二十三年一月～十二月まで一万円（税一三〇〇円）と。十日、出勤、組合支部委員会、共産党撃滅の投票を行なう。一二、三、六高橋君に紹介状かきて遅の話き、二一、〇、金井氏にきて酒のまれる「司法部主任」なる人なるべく欠勤なれど、三時まで眠らず。

十一、金井氏と同道出勤、なるべく木村君不出来、ゆえに高橋君「不良なぜ起こりしと思う、大浜氏伝藤君の堂の助手として出勤、高橋君に話す、こわる」同人なるしと、帰りの車中にて山中嬢「金月限り止めん」と明く、意外。内ゆえ様子の受取。ゆえに大谷氏出勤。

六日、山中嬢の結婚に伴ない、帰り高橋君に、安達氏の推薦、大浜氏にやとう酒のみなどいう。後来まで話す（ウイスキーもちゆく）やこれ、ふるい出来、修養科入るいにまぬしとすれば論（用那氏より三三修）

七日、山中嬢欠勤、八木家を訪れ、夜のこと話しつつ、また出勤、眠し。五時先生来る「ポエート」の話さる。来年を陶値の問題を聞いやるべき「要は仕事まだ」と。話を通じ会。

八日、山中嬢結婚式にて欠勤、十一月末退職とのこと、大浜氏、金井君らにて大谷君に家世話すと、七谷君「心マヤ」なる外事復員と。帰り和田に寄り、先生病気と。本屋の死亡をいう年とうかにならぬにみえる。

十日九日（日）雨、前日直地の汁報「九月十二日死せし」と、長女、鳥取より急き。新聞に山中遠の南よりて五十万円拾受と、めでたし、次女の和歌山にて、石鳥清二氏その名多、和田「ゆえ」「性」女時後来「入院」と、新聞に「性隆事問題の年を」と、長妻、中高松二中より電話「明日、点」と、午後家を出、学校或氏に「家出」ところ、八木氏「アテネ」に話して、仕事の進氏直社のかを木村と。こんなの会こわく（後の義時氏宅）「二中を入会」しめよ」と、「ゆえ」の移転二三日の中止と。一八、次来を二〇月の寺島翁に「ゆく」。

五金会長を代用氏に、身上話しにて一年の辞表。

十日、紙に八木、戸端にて山中嬢に会（仕事）「意」お直しと、帰り高橋君に行き足遅者に学校にしつ、八木家にて父君に話さく、事もなる人なり、「和に依」と話さくなる。

十一日、二四、〇、まで眠れず、翌三、〇より修養科生に起こる、翌朝父君と話し、「嬢」と、「性」、「性」、「性」

てのうち一〇の五いつつ（土産のそーのん賜ける）、翌朝すれば組合の会、午後
二時より総会、吉谷の依頼生活面白ろし、けふ八木嬢ら〜スリッパ
送ってもらふ、眠し、帰れば世話ふ節よ〜、郡氏と旨くやきし」と「同日云
紀之人さくさるれし」と、気の毒。

十四日 出勤、帰り古谷氏を誘ひいろ〜話せしも通ぜず、三理駅にて金井君
に会ふ、アパートへ行くまくを帰し自ひろ、緒つ間酒井先生を訪へ夕
食に酒出る、金里の神崎話し、家長話しする「ゆうるくん奴らし
世現実に一物も送らるるにてしかるに」と、隠れ酒吉谷氏の義弟
に家さくられし」と、風呂つ必ら話しそ二時寝れ出徹夜不眠。

十五日 起きて金井君の炊きこわを飯食、弁当作もらて出勤、神経とち
と久しぶりの如し、けふ石上神宮の祭、俸給出る、山中嬢と同車せし
い上田吉住もち「ナ氏ゆうしと、らしまるるものを。うつくしを眼に見いる草
の花いつまでうつく私の口和で。」書、第四月まら「病気がちの一年ふくん

アルバイトに中学のゆく」と、ちゃるしもわしも。

十六日（日）午後三時半氏（ゆケは）ゲーテ校正、下絵ケんきて すとせ海の才（城
小弟氏と会ひ）帰って羽田のゆきいろ〜話す。松髪七の日、オ中和子眼を
そて「同の人」と、城君は協和服ものしと。人さえ〜。妻海ち和四と送
名の使ら「客の対面ちつ出版にて生活ものいつ」と、肺浸潤とやしばし休み
のしと。荒田さ巻君母寺へ人のみの手紙。

十七日 出勤、仕事はなるなるなるほどに小て十九、二十日と中学校の図書
整理、出書二日のみ勤務のこと、とるて、内野腸全氏来ち山西君の松
浦辺る。一五〇〇ちゃうストでおし。明日八〇社会のことに八木嬢と宮谷
らのみ山中嬢とたれば退職の理由は松谷、鈴木氏ムをの食たまる。

一九〇〇宮沢い来あるも、家角の沢義氏へ一万円の前借を
乞、ちゃんぐい四の巻のコに接ゆるしとをあはれひかけんちるひ
とつぐいの近くし方ばつめやめ袖はんとそけおあのしける、友ら
巻とつぎゆくいにほかちゃんをめるを巻めをかるとわわか。

十八日 南部十九週年とて八〇本駅三的祭合、八、三〇翌餞、吉村正一年の謡
演い「敬意」に人間の不幸の性質を賛揚すること」、不男議、書飲たう
べ酒子、吉村に会ふ「皮肉をやめよ」と、山中嬢「全良教日にて死ぬて」
伝言誠に会ちゃうゆん話せの子。夕方小雨。明日は中学へ整理やて、
角川への借金一万円の申込み、いかいろん。

十九日 中学校（ゆき整理二千冊、書会を小幡信男君母上ら姉の「米国
へよいよせらん」と、一四〇〇まで翌餞、薄茶ち子、高橋君に寄しそ、
四原れの夏君へ中学の二三の商人の無ムの結ちと三〇〇まで つまちをを
帰りて起ら暇。

二十日 中学校い書ちはん三〇、整理一三〇冊、鈴いらて報告子、帰ら山中嬢
母上に会ち子みと後ひとこの、村上君に会ち組織大学のをつひ、帰れば服部主任（道
にて「組織学校名称」と、おしも、羽田いきて相談し、ゆきすきて。

二十一日 出勤ち途、餞長宅に「木は在宅」、へは自和学堂に話しをとんと、書子ちゆき
て話し書類はらそる、松坂ことちち、吉書三冊論文五と子、吉橋君に服部に寄ち
ことをすつみ承諾せしそ、石谷氏へ行き書の浮流お貸し子、明後日委田内の講演と、
服部電報にて断る、山中嬢「十百まで出勤務せのと。帰れば島崎ちへかき。

二十二日 出勤、吉橋君ちのち五、ちち子静寂氏の会い会人と遊ひ」場所不明にて
とりやか、羽田ムちれは帰子、私ムのとりとりち花さがつ、すいしし時はまたのくり
来ち

青二十三日(日) 朝羽田より電話あり、来週会、午後人文科学の高津史学会いやく、日野岡三郎、西谷徒集、須藤氏なども来る。民族学研究二冊買って了。夜、村一郎氏生来、手紙書く。服部正巳、宅

正朔へハガキ。

二十四日 七一五い 書かくれて行けば、芳子会長に逢う。外山軍治氏来り、紹介に紹介

んとすれば外務省の松田信隆氏(高知の長女芳子の夫)来る。喜内さんと午後を

すごす。「二十五日再来」と。「不二」まで伊藤との間にいたるなし。

二十五日 出勤の途、佐藤誠君会う。葉新会により中村さの大学行発表、仕事の

きりで金井、本村の二人にてやり、我は名ばかり主任として責任申請すると、まもなく

「ビブリアのこと、帰りに中嶋に寄し」と。「退職中止」と。

二十六日 三理教紀要文学、三年目いけ、参り、すみて金井君と翌後神

経意識、意行わせしとやってけらる。すみて高井まいりて桑田博士を訪へば不在。

明朝再訪とやとて、上海に乾置きて肥下りを夕食、終を共に政見多きく

留ぶ。不況と、帰りの電車中、村山氏と出逢い、ビールの来る「軍需者の紙

宝機器産の係り」と。帰りて大江松田と四。まで寝来りて話す(ちな

み、記海道(出張中)

二十七日 九三 朝会、晴四三出かけしに出られしところ、駅まで駆けやけ見えず。山

同氏人に聞く「教理会明日帰京」と。「帰って江氏

母に会つ」やめよと。田中館三家より駅三ケ月。大学院の学問、事務室閉大

高校、来た。「明日迷惑せし」。松本に会う。感じ「芸語の教師」と。雨降り

なす。帰りて妻養せしが駄目。午の中の迫込んでなんとか教授の講

演をしか行かず。(大学にて植木と同車、伊藤とスンとつまれ)

二十八日 出勤、中嶋と同車。「大学氏のおしゃべりて、八王子駅も知りなる」と。中学

への出張仙台に出発し、旅行、結長に相談。「帰京」と。「中陸高に行し

今の通勤お気の毒」と。帰り二時と駅まで。羽田に会う。佐藤君のプリント

出し陸上三つ、肯定。

十月二日 出勤、帰り大浜氏に会って「神経意識には修養神経」とこれ

ん くて、左部上田二氏に会う。二部に行くと学生しが雨降りなし

てとりやむ。

二十日(日) 朝羽田を訪ねば「陸上部」と、中て話をけば「陸上部」

学会知りをる」と。「学院氏どこやらんハイネ世話しをれし」と。注意をし

を知らずして入寄宿舎にて、午後宇治の二中行へば不在、小崎を

在、下絵所へ行きて矢田に人会へば三理会精神学、千葉の手紙まり

とり、喜ぶ。

二十一日 出勤、中村芳子事務を結局つみ、休憩時間に会合さ、人とせしとて

一も来、高橋君帰来、昨部出人ホを去はかなし由「角川不況」と。

会社へ行けば、もたされて行りし山本中、帰れば「くれるか」まとり。「なお

井女子二〇〇信用。八〇〇ておる西尾人会、伊藤氏に引き「してもらう」

十一月一日 出勤、「今の史は見浦」(やくちゃ)、夜まで下絵作り、帰りに本

塚に会の外て大浜君(やく、夕食後京橋に行けば「鈴木氏」と。「ひ」

ゆき一〇〇のまい作り、結局、下絵をしてある。政治的を終わり

と。(大浜君にて泊のてもらう。会社に宅の件にても郵出しかること。一〇〇のこと)

二日 九二〇すむ登館、休日出勤と休憩は勤務のことを中村芳子、戸をなしし

てものみ、結局の成果は反対三要、多、仕議を送。筆にもが雲子多、ク

けし現法く、早引して宇治へ行き(大学ほうがス)、会社なる二中を訪ねる

五一五続

こ(おの)の会いやく、ケーテ氏出来より、五〇。帰もるの、二一〇〇入(退)庁。

十一月三日　文化の日と九の「ゲン」、桃山御陵参拝。陵前が墨絵一つの張出す。
玉璽を奏するのいらく「法天、法野」かとしに不在。「ゲーテ」を「岳」冊買く。帰れば留
守中酩酊君来り、地図を出して三部屋を中をとり、国部を也ちかも「五ちる
高校の記録」、国を知る。此夜の同隊の色倉掬生伍長。夕べ初日の出て佐
世保良し」と。くやしてい御はみて、ていこうちけて注ましをうことをきみはおれじ
買曝書めるる。七、四一にて中を離れて車、国もみを訪ひ、ゲーテとかれをあるとをあ
付きて入江と紙、夕、中学校の勝劣発表掲示しが行く、雨の中を帰る。なる理は
報知高田君来り話を注文す（十日までとはしまき、島絵まんが「西ケを訪ねしと。
（そーて宮ふ、宮移、図書後、小木、山中諸氏いるる。）

十二日　七、四一にて中く、中林君と組んで陽書、入矢君に会ふ、そのの中学校の新司
宮移居もち来し志ふ佐うん与ま。明日欠勤とはいはめて帰れば服部ちゃ八がき、
「愛大の漢文和塾に」。「ケ」来ちと酩酊君とにんき。
十三日（日）欠勤してり「書みて、速達ず、楚中清ちん「ゲーテ」と「学問」
送る。羽田にゆけば冷淡、八日に出現へ来る」と。郵四又去いゆけば要原氏河去ん
世話一ちんくまるしと。「ヤ」ト、エリザベトへの手紙もらる。要原氏ゆけば三部
達治氏と様って。夜校屋に電話し、三部氏に「明日会ひたし」とこ一ゆけの云野ふ
氏り所にて「つんぼ」の詩人ちに会ふ。話わたす）。
「ツ」「ツ」の花ちに女がつくしむ秋の夕のそいくひるす型。高田
十四　七、一五にる。りんだうの花ちに女がつくしむ秋の夕のそいくひるす型。高田
病院の青木院長と話す。終日三部氏を訪ねる日本の話す。「伊藤の話」
釣り之社ち出して病気見舞と女と。帰りて寝衣もし知へ伊田より電
話。新竹れ去、竹上ちの野書房へ中を社長前田隆一柿本、奥西又第、
高倉君と話す。文芸録豊後氏と合流して出せと、二三、〇〇。高倉君と
楽をして帰る。前田と奥田を送る四十分（九）すぎと。

十五日　七、四一にて出勤。大学の北村寿雄長まり、大学教授の寄書日
歴書みせて、近ゆ氏を呼びて理由きく、筆記おとをつ「高
橋君の発言」あれば知らず」と、再び奥村学監に注ましのしるす。
自ら断りにゆく、中村君ちくんとにて会をとはかる。羽田一二〇〇
も来り、ちを之鉄者と話す。ちとして「あの下でよく三年来拾し
ヒー」と、帰りにんの出る。
十六日　出勤、雨、中村幸彦行遍内話で「知」とし、自らをくゆし
ことと昼雨降す、をせし、外に事なし。
十七日　八、一五に集り、郡山に降り国を知るお出る寄、ちきて書まへに仕事まる。大学
佐藤誠の話氏と話し、まるし国をみまとちんば「報」の高田君に会ひ話一
箱出す。帰り三部氏に行くとし右西一印氏に電話せしが不明。帰る。
佐藤君ちと「玉理」を学にても詩人ちんばを学じる由、羽倉君ち電話「ヤ」
学住宅の用紙とりたりと。
十八日　八〇〇家を出て、下綿町の家に田子氏、父上阪、ゆくと、城手教父に会ひしが
廿四時、時事四代ちんを知会ひ会ひ、用紙出らて来、奈良電京阪、関
目ちんの「報」の話をし、「宮澤」大江一郎ゆにゆくと、一〇〇〇帰りて帰る。
前田「ちんの杖」、夫人胃腸病者と。
十九日　休暇、雨、九〇〇家をあ、市役所に中を以膳雲の部屋を訪ゆ、父動
鈴木係長に庶務へ、手続ずまを（四四〇〇）時事四代ちんの記会ゆ、
医学紙し、レーるいゆけば山高松三ケ二阪を阪、帰りて下駄ゆに生父を話し、
天鉄去い来りて帰る。
二十日（日）雨、加ゆけて山崎氏の技助ゆし、要原氏に本「社」ばつ「ちんを
文学の話題」にまみ、ちんおの会ゆ下

ば二印書ク、一七、三〇出て公園ヤツリ勝ち訪ネれば出入病気「引受ケ
出ト切カシて之ノ人ヲ、タイんあしゃう話ヲ、久ことの話トて品ハ出しはうんし
島給、餘ヲ後同和ヲ也、上ノ一故、日高て（柳原氏）（八かま書く。実ハ
部ヲ〇ハのきて「運ヲ和印ヲ出て玉ほヲにて内ヲ味中ヲ行ノ家ハ」と、中絶。

十一月十四日　出勤、一時間早リし紙中ヲ治ノ二ハヤケル「花ヲ嘉ニ与ヲ」、待
ヲ受ケ話ヲ、只ノ入党も知ラ知リし。「月下ノ一群」ヲ読ム睡ル。

十五日　九、三〇出て（三ノ宮ヲ動）ヲ久任まで、電車て朔帰ヲノ古谷君ニ会
ム、一五〇ノ日ニて帰まで（ノ。司書研究部主任張表ヲし、ツベルクリン反
応ノ法教受ク、山中嬢退職会表ヲ、模様、出発年延ニ迫ル、帰
れば五君ヲ「白鳥摩吉ヲ生ノ日本語ノ変級」ヲ「ヲし」と、松村一郎ヲ生
ヲ「白隠ニて来ル」と。くまヲ発行所。出ヲ宮三より十四日新五位発
今ヒヲ木ハすぐ運動ヲ。四倉君ヲ電話「番ヲ」、来ガしヲ。

十六日　出勤、大谷君遅ノ「迫」し、ヲ。三ノ宮ヲ出ル、松村へ行ク。
尾西来ル、富松神ヲ会ム。尾西ノ家ヲ、西宮法ヲ人ニ会ヒ来五
升分ケてもらひ（二〇〇メ分）、坂口兄ノ中ヲ吹ケ。二〇、三〇迄研ハ中ヲ
ハ印、ヲ中ニ餘ヲ治ハ中ヲ、ノ八ヘてドルフヲ一ヒ来ル。「青塚山ヲ院ニ小部ヲ
三郎、君沖一、松山平ヲ動ム。

十七日　八本西口ヲ乗リ一〇、〇図書館着ヲ来五升ノ重ヲ図部ヲ、中ヲ
て不快。他ノ来ヲし。同ヲ和ヲ嬢ヲ手紙、恋人ハ芝君ハ非ヲ拒ヲ。
（ヲ松井君来ル「ヲ」ヲ来ノ手ヲ中ヲ断ヲ）ツベルクリン反応陰性と、
みしき。税金九一五〇円と、作年ノ十倍。

十八日　出勤、私ヲ文学図書館会ニ出ヲ。つまらヲ。ノ八ヲ
ハ一番しも寒し。甚三年来ヲ寒ノ来ル。

十九日　ヲんり研究日として行カヲ。お倉ハ中ハ多忙「住宅ヲ今（ヲ）」と、西ヲ
ヲて伊田ノ会ヒ、ヲもい祇園十二時ノ所て楽ヲ右ハ会ヒ、吉野書店引
区し法ノ大学長ヘ郵ヲ前社長ニ書ヒてもらひ帰ル。ヲ冬ヒ、ヒ
山へ行ヒしヒもしヒ中ヒ中ヒ行ヒ。

二十日（日）雨、二〇、〇家ヲ出て大津ノ松村先生ヲ訪ム、大津ハ病ニよ
他ノ客人ヲ、ハ一緒ニ出て京都ヘ帰ル。三位ヲ訪ハし軍文堂、雨ハ。

二十一日　出勤、暖し、うまヒニ出ヲ木ヒも色ヲ出て、通ヲひとひとヲ
てヲらん。島崎ヲ区役、河野千寿姫ヲ「風邪ハて来ラ来ヲ」と。

二十二日　出勤、中ヲ松ヘ行ヲ出張、外山軍治君来リ「どこ一世話ヲ」と、中村氏ヲ
中ヲて行ヲ儀、ビール飲ヒ、ハ中ヲ拒ヲし、帰ル四ヲ中ヲて、ヲ君
ノ帰ヲ行ヒとヲる。白鳥摩吉ヲ生ノ「話ノ系統」十数年、ヒ区
ヒてしヒ。

二十三日（勤労感謝ノ日）七、〇ヒ（ヒ）ヒ、雨ノ中ヲ帰ル。山本ヒ人ヲ狂ヒ。
後外山軍治ヒ、ハ中ヒ履歴書ヒ、ヒ、ヒ降ル雨ハ中ヒ中ヒて
出ヒ出ヒてヒるヒヒヒ。

二十四日　出勤、伊藤ノ「ヒ」ヒ手紙ヒ。前ノ伊美ハヒ行ヒ。

二十五日　出勤、一〇、〇区役生来ラ「ノ」ノ多ノヒ務ヒて、辞ヒ
中ヒ「ヒ」ノヒ。来二部ヒて帰ル。松村ヒ先ヒ「印ヒ、ヒ木ハ
ノヒ」、「ヒ」ノ会ヒ日ヒ、ヒ西ヒ定ヒて。

二十六日　研究ヒるヒノヒ、一〇、〇家ヒ出、上（ヒ）区役所ハ中ハ税金ハ
家屋税ノヒノ書ヒ、ヒ部ヒ房ヒ中ハ「ヒ今日中ハヒ山ヒ」、前日氏
「ヒ行ヒ文書ヒ子育ヒ会ヒ出ヒ行ヒ」。夕方ヒ来ヒ武ヒ山ヒ来ハ
「ヒ切ハ中ハ行ヒ」。ヒヒヒ中ヒ会ヒ力ヒ、ヒヒヒヒヒ

十一月二十七日（日）主人まるのと思ひしが来ず。羽田へ行て主人いつき室
く。「先生の記」なるものを見てつくづくにる。
二十八日 七一五い来り出勤。ぜひ訪ひ度旨話ありしかれども、
りしまず、清水お祝ひ会へ出て二時帰り、夜話所に
宿泊。塩田氏一行来る。来て不在。
展覧書受取り。
二十九日 出勤の途、道灌記を求めに行き、押せば来ることとなる。
山中塩原の三泊会なる文いき、午後清水氏より手紙、芸妓来る、
紙の（一〇〇）（一銭五厘）受取る。吉雄君来て帰る。夜と八スいて会の
次第手紙にて松知母い会の会をつけれ来る旨也。
三十日 出勤、「先生の記」かきつづけ終る。午後安達氏「泉
之丞」へもくやけば二千円と、古印書房一中氏に面人（宮島君、清水方と）
「行かずいやけば社母の女、りつ」来て帰る。
十二月一日 朝宮島君を訪て南出「仕切二日か三日か出発」と。「保積」まで古野書房
いきと、駅前三俣結所にゆく。清水君出しあと、帰り書をこしらえ出にゆく。
来る「結婚式」来し、「長大せずは行の子」なり。なやをのうちもい自社を要を一
よとなし、宮島氏（出発三時）を送りゆく「五の勝」にて二十八日より二つ、無事
を伝ふ。「好南おくを都者、清水君を訪ひ」来て帰り来る。「蓬
書明出るおしんいんで自殺」。半日を過ごす。
二日 出勤の途、中井書幸ともいふ。霧深し、中井にすく弥部会、「
「共東書目録」を二十周年記念に中る書幸書出せと。外山軍治君来り
展覧書の書方の答め、芸書目録を書かず、帰り浪吉の中山君（船造）
い会へ出席の幸伝を氏（明勢後て、八宮出）を要ゆしきて、「阪下かみ

に立し」を内に入る。帰り古野書房（中井）伝田あり、清水君氏（いさし
め二二〇まで伝し、帰しと二三、三〇宮島君の自転車の風いをてもらへ
世立に答めらる。藤枝を電話「明日の一〇〇い彦根女子の校長来訪
と都合しらせ」。
十二月三日 早起きして七一五に南の合来は清水氏一行発車まで出る。後長野氏
銀行い奥出しより、それて藤枝への電話あり、帰り来方文に「中井」
上郷寅助（十二年辛巳と）君のピルの話、みて「陸田氏弱学生」
分てん、彦根女子の話承。「来年四月」とてこれつ多、明日膳所までゆく
こと、す、帰り加田へ「南大学校出すぎ」と、さ多松を生の会い
お電話し、「西田氏人に身の上と銭金のこつ、不快なる傍答なり」
四日（日）八〇〇にて三都駅中井汽車にて、三俣（刀江）し安津電車にて膳所の彦根
女子校長長多和氏を訪南、清水氏と同級の表物二十量、宮永氏の
「西田氏」四月に来てもらうこと以、強意、松村一郎氏の意「ほい強意の話
度氏しかめてくださいと報ひ。大西郎氏のつにおの会に出る、中商校
お、稔君を家多味にて南出会四の結婚と見合せと」「止めよ」い（出発）。
一七〇〇にて帰。来たりの前に「まだ来ず」と「くれる」来る。
五日 七一五に出勤、午後おそくして（五れ九二一銭一二九八）四〇〇四にもる。
芸子の他との話い芸者之芸、面白し。帰り養儀社へ中井「三船」伊
倫くんを松井る。新り外南を人生カード。
六日 西田さい
「共東書目録」
一万円と、「図書館執行
中村幸雄」
屋敷書の書方の答め、芸書目録を書かず、帰り浪吉の中山君（船造）
い会へ出席の幸伝を氏（明勢後て、八宮出）を要ゆしきて、「阪下かみ

十二月七日 九〇〇東都発、二〇〇出支部会、青年をいためつけ、やっと協力的たらしめ
すれば一同!!。けのくれる由（路古首送る）。
八〇 研究日として欠勤、午後外山氏より「大阪へ早くやと」、午後和田へ寄、支
方文化の薄弱を話し支津史研究の会いもる、宮崎、伏伯西之生の紹介
史の話、すみて和田と出、電車にて史の社、中島氏と会ふ、向ふ
変えてあらんしい沿線、川勝氏を訪ねし帰る、同窓会名簿受
帰る、仕事不久い寄りしに不帰、帰れば酒君より「四二〇〇貸した」の
手（表紙をつけて帰りし）。
九〇 七一五い乗りおくれ西の乗車、佐藤減いやけに「薄茶」を飲む、山形青彦「羽
田に飛ぶ系」と田中氏「飛ぶ」とつれし由、中ケ谷一、三〇「ビヤリ」のと女子ホテル
相手なせず、貴書日誌の会、すみて亜社まで「ケーテ行き」二冊、嬢ちゃんに
とやる、石治生 朝の電ないそ「緒」と、三理やるをゆとりしい心配さる
力野勝と手をもれ、吉にあしあ氏「高鈴生」と手紙と八木嬢へ
ちゃ「帰り」を「へうして出行」。伊藤聖祐より「明日来」と電報。
十日 出勤途中、なつまち帰りの森忠氏に会ふ、鈴木治氏に寄って行く、をを
氏のひとを眼をしておくてやく多日の広いよりそってあし、布施市蓑島四〇二
とへ伊藤聖祐のところを探しまつやく帰る、梅井いりをを紹介氏方を訪ねて帰
らず、保田いやを文学辞典、名著解題の相談す、四〇〇まで治す。
十一日（日） 保田宅を出て駅いやけ八、五、ちはて、中堂と一、二〇〇まで行きて仙田氏の
をやりとをいふ、高橋君とあしやり、来りし客を中 ル社長佐藤
氏（その弟君、昨大学、三一高教授）外い要内す。
十二日 病出て九、四一の
郡山下車、図書館 「祖国」の詩碑のをらん、野中
帰り山中女史に会ふ、高橋夫人今月中に出産。
内山定吉「ちゑ（ちゑ、ちゑ）」買ふ。
十二月十三日 一〇〇出て教室、市役所にて書会、筒井の新名しのみい
て高麗いやけ山川保名不在、大手前高校の坪井を訪ふ、ともいを
しも欠勤らしく、坪井いたるみて出、間に高校いやけ出て帰りしあと、山本
治雄いやけ不在、吉野書房に自西之を訪ひて帰宅。「くれるあ
り」「稿受取りし」。
十四日 出勤、電話にて山崎と同様「不景気」。ホーナス一、三五〇もらふ、佐藤減君を
上に紹介しと、服部氏より紹介渡辺とのはしとして鈴鹿様にあんとつれしも
呼ばず、帰り義伯氏に寄る、生郎氏南方を訪ねる（三十五まで）と
言未寄去「太平洋海戦史」買ふ。
十五日 一〇〇出勤、午後支津史研究会、「太平洋研究」
の金坪氏にやく之を到氏を訪ねしい不在、支方文化いやけ義
校方「神田生名氏の遺文の後仕い紙を推しにまい、一月九」と「ない
し二ヶ月間無給と思」と。吉野書い来る（内勝氏（中く自宅）寄まで
中ケ谷氏まひ、「ケーテ十冊」渡しまる、川勝氏いやけ訪問らし、帰
り和田に中ケ谷しい入場、帰れば「お年和母」なる死いたをしし。
十六日 出勤、正午ハ日吟風氏来る、司書会、いまでの出入りを清田
す。佐藤減君服部大人と喧嘩と。帰り内田氏と同行。「くれるあ」一五〇。
医金、国もみ出三〇。医金せと。
十七日 出勤、●●氏那賀つ日およみ表とて仙田に流せしい有耶無耶、八木嬢の
友妻いのお人型氏いまいまと佐藤減君要内役「ホレ天理」の出来いを出来ホレし
と、氏駒山ものとつみちいやきまでみたりみしに中ものとホレし、下新いを山田氏、林和田
氏方内田佐用中氏みとやるれしと、来ちを四日と。中野[illegible]。坪井明[illegible]「三十五」来ちと

十月十六日(日)一日臥床。[illegible]「池内先生預けられし」と、「和田[illegible]
[illegible]事をいひしとられる」と、父不在に来る。珍し。
十九日、[illegible]年会不拘とて欠勤。「若き俳人への手紙」を「[illegible]」の[illegible]書く。
二十日より二十枚、相田にやく。西田氏入洗しとて[illegible]口、中[illegible]叱る。夜[illegible]
書二枚書く。
二十日、出勤。[illegible]年会の内と来と[illegible]珍し。「月下の一弾」八本嬢に五[illegible]
[illegible]。伝家城の[illegible]つゆく。中畑君の母上に会ひ、明日私鉄ストと。[illegible]
冬の木立をタヨムにおちりし行けど会あとをもとし。
二十一日、私鉄ストと、[illegible]有線にて[illegible]を同村老[illegible]に会い[illegible]井の[illegible]
食ひ、山[illegible]に会ひ「[illegible]」と、ストの[illegible]
もし[illegible]上さして降り、[illegible]中を月[illegible]年末[illegible]
伝家城「[illegible]」と[illegible]。
とらんと。帰れば伊[illegible]祐子[illegible]。
二十二日、大[illegible]家を出て西[illegible]中[illegible]末里[illegible]に会ひ西へゆき相同神社へ[illegible]。
[illegible]花園が[illegible]へゆく。一九[illegible]
[illegible]感に浸り、[illegible]生を生きんとなほひつゝ、夜[illegible]
二十三日、八[illegible]
[illegible]
[illegible]

Toppan
の文房具